

2026年度 文学部聴講生

講義要項

(日本史学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名： 日本史概説A(日本史学専攻)**担当教員： 西川 広平**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 金1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-JH1-F103

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA1732

更新日時：2025-12-29 15:29:5

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在の歴史学研究において、日本史がどのように理解され、関心が持たれているのかを紹介する授業です。歴史上の事象を、現代社会の状況と比較して捉えることにより、新たな価値観を考えるきっかけとなる内容とします。対象範囲は、ヤマト王権成立期(4世紀)から江戸幕府成立期(17世紀初頭)までとなります(古代史～中世史)。

科目目的

古代史・中世史における歴史学研究の成果を通して、現代社会の常識を相対化し、歴史上の事項から新たな価値観を考えるために必要な知識の修得を目的とします。

到達目標

高等学校までに学んできた日本史の内容が、様々な見解がある中から、どのように成立してきたのかを理解するとともに、歴史学研究の成果から現代社会の課題を考える力を養うことをめざします。

授業計画と内容

第1回～第13回の授業は、manabaのコンテンツにレジュメをアップロードしますので、各自でダウンロードしてください。またmanabaのレポート機能等により各回の課題を提出してもらいます。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容の説明)、ヤマト王権の成立
- 第2回 律令国家への道のり
- 第3回 平安京と摂関政治
- 第4回 中世の萌芽 院政と荘園公領制
- 第5回 治承・寿永の内乱と承久の乱
- 第6回 執権政治の推移と得宗専制
- 第7回 モンゴル襲来と鎌倉幕府の滅亡
- 第8回 古代・中世の社会を考える
- 第9回 南北朝の内乱
- 第10回 室町将軍と守護・大名
- 第11回 列島東西における戦国争乱の始まり
- 第12回 戦国大名の展開
- 第13回 天下統一への推移 織豊政権と江戸幕府
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	30% 授業で学修した内容の理解、課題に関する考察力・表現力
レポート	0%
平常点	70% 出席状況、授業中の発言、各回の課題への解答
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの小テストやレポート機能を使用した双方向型授業の併用

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

博物館の学芸員として、史料の取扱や展示等の業務に16年間携わる。

実務経験に関連する授業内容

歴史学を社会に還元する目的と方法について指導する。

テキスト・参考文献等

レジュメ等の配布資料で対応します。

オフィスアワー

その他特記事項

各回の授業の冒頭では、各時代を代表する歴史上の人物を紹介します。また授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から古代史・中世史に関心を払うことを期待します。

参考URL

備考

科目名: 日本史概説B(日本史学専攻)

担当教員: 山崎 圭

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-JH1-F104

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:54:1

更新者: AA0534

更新日時: 2025-12-25 17:43:2

授業形式

すべての授業回について面接授業を行う。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

日本史概説Bでは、主に近世史・近現代史を扱う。この講義では、時代順に話を進めていく形式をとるが、政治史中心の通史的形式はとらず、各時代(時期)に特徴的なトピックをとりあげることとで、その時代や社会の特徴を捉えていくことにしたい。また、途中で、特論(地域)として琉球・沖縄の近世から近代にかけての歴史も取り上げる。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す「専門的学識」を修得することを目的としている。

到達目標

日本の近世・近現代の歴史について、それぞれの時代や社会の特徴を理解できるようになること。

授業計画と内容

1. 後期の授業ガイダンス
2. 近世前期①近世の日本と朝鮮
3. 近世前期②ヨーロッパ勢力と日本
4. 近世中期 綱吉政権の歴史的 position
5. 近世後期①若者組と休日社会史
6. 近世後期②小林一茶とその時代
7. 特論(地域)①琉球王国の時代
8. 特論(地域)②明治政府による琉球処分
9. 幕末維新期における「公論」の形成
10. 明治期 自由民権運動
11. 大正期 大正デモクラシー
12. 戦時期 満蒙開拓団
13. 近世末～戦後 結婚・離婚・女性
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% 到達度を確認するため、主に論述形式の試験を行う。

レポート	0%
平常点	50% 授業を聞いて理解した内容を、毎回、manabaの「小テスト」に記述してもらう。その点数の合計を平常点とする。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

以下に該当する者はE判定とする。
 ・出席率が70%に満たない者。
 ・期末試験を受験しなかった者。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室中での授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。必要な文献は、授業時にその都度指示する。

- 《参考文献》(自学用)
- ・『日本近世の歴史』1～5(吉川弘文館、2011～3年)。
 - ・『シリーズ日本近世史』1～5(岩波新書、2015年)。
 - ・『日本近代の歴史』1～5(吉川弘文館、2016～7年)。
 - ・『シリーズ日本近現代史』1～10(岩波新書、2006～10年)。

オフィスアワー

その他特記事項

毎回の「小テスト」の提出にあたって、まずは、今日の授業のポイントは何かを短い文章にまとめて書いてみてください。そこに自分の感想も加えると、なおいいですね。「とても面白かった」、「興味を持ったので、自分でも調べてみたい」とだけ書く人がいますが、これでは得点にならないので注意してください(どこが面白かったのかなど、具体的に書く必要があります)。良くも悪くも、塵も積もれば山となるです。
 ※授業内容と関係なく、当日のテーマの教科書的(辞書的)説明を書く人がいますが、これも得点になりませんので十分注意してください。

参考URL

備考

科目名： 日本古代史A**担当教員： 志村 佳名子**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 金1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F201

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA2437

更新日時：2026-01-12 10:48:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本の「国家」としての本格的な歩みの始まりは、古代史分野で扱うことになるが、近年古代史は新たな史料の発見や発掘調査の進展、グローバルな視点による研究視野の拡大により、以前の古代史像から大きく変化している。それに伴い、教科書の記述も時代とともに少しずつ記載内容が変化している。このような状況をふまえ、本講義では日本の古代国家の形成過程における各論点について、史料をもとに最新の研究成果を参照しながら解説する。主として大化前代～奈良時代を中心とする政治制度の形成とその展開過程の学習を通して、日本の歴史・文化を特徴づける政治制度の基層と古代の文化についての理解を深めることを目的とする。

科目目的

日本の古代国家形成期における支配制度と文化の考察を通して、日本古代史および古代の文化に関する専門的知識を習得するとともに、多角的・客観的に歴史事象をとらえる視点を身に付ける。

到達目標

- ・日本の国家形成期に関する専門的知識を修得し、史料にもとづいて客観的に古代史の各論点を考察できるようになる。
- ・日本古代の歴史と文化を相対化する視点を養い、実社会の様々な問題を歴史的視点から考えられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンスー日本古代史研究へのいざない
- 第2回 古代王権の誕生
- 第3回 ヤマト王権の形成と国際化
- 第4回 ヤマト王権の支配制度と仏教伝来
- 第5回 飛鳥の都と東アジア外交
- 第6回 大化改新から律令体制へ
- 第7回 改新後の国制改革
- 第8回 藤原京の造営と「日本」の成立
- 第9回 律令国家の成立と平城京
- 第10回 律令国家の制度と実態
- 第11回 奈良時代の政治と疫病
- 第12回 政変・天災と仏教
- 第13回 奈良の都の終焉と皇統の転換
- 第14回 総括と到達度の確認ー日本古代史を考える視座

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義の中で紹介する参考文献や関連する文献を読み、積極的に講義内容の理解に努めること。授業内容に関する質問は、manaba(アンケート)で受け付け、次週に回答する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	授業内容と問題をよく理解しているか、問題について歴史学の方法論をふまえて適切に論述できているかを評価する。
レポート	0%	
平常点	30%	授業中に課した課題に関する理解力、取り組み姿勢を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

試験の答案の記述量が著しく少ないものは、採点しない。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回レジюме(ファイル)をmanabaで配布する。
参考文献は、授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本古代史B**担当教員： 志村 佳名子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 金1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F202

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA2437

更新日時：2026-01-12 10:50:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

京の都を舞台に展開した平安時代は、古代国家の完成期であると同時に、次の時代への転換期でもあった。400年の長きにわたって続いたこの時代は、律令国家の理想の先に、日本的な政治構造が一つの到達を迎えた時期ともいえる。本講義では、平安時代の政治制度と王朝文化の形成過程を史料をもとに辿り、古代・中世の転換期に生じた諸課題を捉え直し、平安時代を考えるために必要な知識と視点について考える。また、平安時代の史料の講読を通して、平安時代の生活や文化にも触れる。

科目目的

日本の古代から中世への移行期における政治制度と文化の考察を通して、平安時代史および当該期の文化に関する専門的知識を習得するとともに、多角的・客観的に歴史を考える視点を身に付ける。

到達目標

- ・日本の古代から中世移行期に関する専門的知識を修得し、史料にもとづいて客観的に平安時代史の各論点を考察できるようになる。
- ・日本の古代から中世移行期にかけての歴史と文化を相対化する視点を養い、実社会の様々な問題を歴史的視点から考えられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス—平安時代史の諸問題
- 第2回 桓武朝の政治課題
- 第3回 長岡京と平安京
- 第4回 平安遷都と宮廷文化の形成
- 第5回 王権の変容と平安京
- 第6回 平安前期の外交と仏教
- 第7回 摂関制の成立
- 第8回 延喜・天曆の治と摂関制の定着
- 第9回 藤原道長の政治と日記の世界
- 第10回 平安時代の財政制度
- 第11回 唐風文化と「国風文化」
- 第12回 摂関政治期の思想と信仰1神祇祭祀制度の再編
- 第13回 摂関政治期の思想と信仰2仏教とその他の信仰
- 第14回 総括—平安時代史のとらえ方

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容への質問・意見をmanaba(アンケート)に提出すること。講義の中で紹介する参考文献や関連する文献を読み、積極的に講義内容の理解に努めることが望ましい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	授業内容と問題をよく理解しているか、問題について歴史学の方法論をふまえて適切に論述できているかを評価する。
レポート	0%	
平常点	30%	授業中に課した課題に関する理解力、取り組み姿勢を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

試験の答案の記述量が著しく少ないものは、採点しない。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回レジュメ(ファイル)をmanabaで配布する。
参考文献は、授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本中世史A**担当教員： 西川 広平**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F203

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA1732

更新日時：2025-12-29 15:37:2

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

武士と武家政権をキーワードに日本中世史の研究動向を整理するとともに、中央から見た中世史と地方から見た中世史との比較を通して、中世社会の多様性を考えます。特に地方から見た中世の事例として、中世を代表する武家である甲斐武田氏を取り上げます。授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から中世史に関心を払うこと。受講者の積極的、主体的な参加を期待します。

科目目的

日本中世史研究の歩みと課題を学ぶとともに、中央と地方から見た時代像を踏まえた中世社会の多様性を考えることを通して、中世史研究の意義を理解することを目的とします。

到達目標

日本中世史研究の軌跡を理解するとともに、多様な視点から中世社会を捉える思考力を養い、通史的に中世の時代像の把握を図りつつ、中世史研究に必要な見識を修得することをめざします。

授業計画と内容

第1回～第13回の授業は、manabaのコンテンツにレジュメをアップロードしますので、各自でダウンロードしてください。またmanabaのレポート機能等により各回の課題を提出してもらいます。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容の説明、統合と分立の中世社会)
- 第2回 武士とは何か 在地領主制論から職能武士論へ
- 第3回 戦国大名の顛末 大名領国制論と戦国期守護論
- 第4回 義光流源氏と東国／義家流源氏と前九年・後三年合戦
- 第5回 武田信義と治承・寿永の内乱／源頼朝による鎌倉幕府の開創
- 第6回 鎌倉御家人における武田氏の地位／執権政治と得宗専制
- 第7回 武田信武と安芸・甲斐武田家の成立／足利尊氏と南北朝内乱
- 第8回 甲斐武田家の没落と再興／室町幕府・鎌倉府の抗争
- 第9回 武田信昌と戦国甲斐の幕開け／列島東西の内乱勃発と明応の政変
- 第10回 武田信虎と甲斐国の統一／戦国大名の成立
- 第11回 武田信玄による武田氏の再編／戦国大名間の抗争
- 第12回 武田勝頼の滅亡／天下統一と惣無事
- 第13回 武田一族の中世／武家政権の展開
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	30% 授業で学修した内容の理解、課題に関する考察力・表現力
レポート	0%
平常点	70% 出席状況、授業中の発言、各回の課題への解答
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの小テストやレポート機能を使用した双方向型授業の併用

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

博物館の学芸員として、史料の取扱や展示等の業務に16年間携わる。

実務経験に関連する授業内容

歴史学を社会に還元する目的と方法について指導する。

テキスト・参考文献等

レジュメ等の配布資料で対応します。

【参考文献】

岡野友彦『源氏長者 武家政権の系譜』(吉川弘文館、2018年)
西川広平『武田一族の中世』(吉川弘文館、2023年)

オフィスアワー

その他特記事項

日本中世史Bもあわせて履修することをお勧めします。日本史学専攻以外の学生の履修も歓迎します。
授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。各回ともに、manabaのレポート機能により課題を提出してください。授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から中世史に関心を払うことを期待します。

参考URL

備考

科目名： 日本中世史B**担当教員： 西川 広平**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F204

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA1732

更新日時：2025-12-29 15:41:5

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中世は、繰り返し発生する災害と争乱に人々が対応を迫られた時代でした。災害と争乱をキーワードに日本中世史の研究動向を整理するとともに、自然と人、人と人との関わりを通して、中世の社会を考えます。授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から中世史に関心を払うこと。受講者の積極的、主体的な参加を期待します。

科目目的

災害と争乱を通して日本中世史研究の近年の成果を学ぶとともに、自然と人間との相互関係を踏まえた中世社会の実像を考えることを通じて、中世史研究の意義を理解することを目的とします。

到達目標

日本中世史研究の近年の成果を理解するとともに、多様な視点から中世社会を捉える思考力を養い、テーマを設けて中世の時代像の把握を図りつつ、中世史研究に必要な見識を修得することをめざします。

授業計画と内容

第1回～第13回の授業は、manabaのコンテンツにレジュメをアップロードしますので、各自でダウンロードしてください。またmanabaのレポート機能等により各回の課題を提出してもらいます。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容の説明、災害と争乱の中世社会)
- 第2回 社会史研究に見る災害と争乱
- 第3回 気候変動と中世の社会
- 第4回 中世荘園の開発と災害 寄進地系荘園論と立荘論
- 第5回 中世村落の開発と災害 景観論・生業史に学ぶ
- 第6回 都市・経済活動と災害
- 第7回 災害と権力 徳政思想
- 第8回 開発・災害と寺社・信仰
- 第9回 争乱と移動する武士団 治承・寿永の内乱と南北朝の内乱に学ぶ
- 第10回 戦国の争乱と「自立(自律)」する社会 移行期村落論と地域社会論
- 第11回 争乱の調停 織豊政権と惣無事
- 第12回 争乱と外交 モンゴル襲来、倭寇、朝鮮出兵
- 第13回 記録された災害と争乱
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	30% 授業で学修した内容の理解、課題に関する考察力・表現力
レポート	0%
平常点	70% 出席状況、授業中の発言、各回の課題への解答
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

博物館の学芸員として、史料の取扱や展示等の業務に16年間携わる。

実務経験に関連する授業内容

歴史学を社会に還元する目的と方法について指導する。

テキスト・参考文献等

レジュメ等の配布資料で対応します。

【参考文献】

藤木久志『村と領主の戦国世界』(東京大学出版会、1997年)
藤木久志『新版 雑兵たちの戦場—中世の傭兵と奴隷狩り—』(朝日新聞社、2005年)
峰岸純夫『中世 災害・戦乱の社会史(新装版)』(吉川弘文館、2011年)
西川広平『中近世の資源と災害』(吉川弘文館、2023年)

オフィスアワー

その他特記事項

日本中世史Aもあわせて履修することをお勧めします。日本史学専攻以外の学生の履修も歓迎します。
授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。各回ともに、manabaのレポート機能により課題を提出してください。授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から中世史に関心を払うことを期待します。

参考URL

科目名：考古学A**担当教員：小林 謙一**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-AR2-F205

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA0827

更新日時：2025-11-23 20:44:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本歴史を理解し、日本文化を考へていく上で、物質文化による再構成としての考古学的手法は重要である。考古学研究を目指すもの、歴史研究を目指すものにとって必要不可欠と言える考古学的研究法の基礎を理解してもらう目的で、概括的に講義する。同時に博物館学芸員を目指すものにとっても、博物館資料を理解し研究し修復・保管・演示などで扱っていくには、考古学的素養は不可欠であり、一般的なことから専門的なことまで講義したい。考古学Aでは、基礎的な考古学研究法の理解を得ることを目標とする。なお、具体的なケーススタディでは、日本先史時代を中心とする。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群(選択)として位置付けられていることから、学習を通じて、歴史を学ぶ上で必要な考古学の基本的な考え方を、日本列島の先史時代を題材に習得することを目的とする。
また、学生が学位授与の方針で示す「専門的知識」や「複眼的思考」を修得することを目的とする。

到達目標

基礎的な考古学研究法(型式論、層位論、編年、集落研究)および考古学史について理解する。

授業計画と内容

- 【第1回】考古学とはなにか・遺跡調査法・発掘、縄文時代の理解を巡って
- 【第2回】考古学研究法1 遺物の種類・石器研究法
- 【第3回】考古学研究法2 土器研究法 層位と型式(『縄文社会研究の新視点』1章)
- 【第4回】考古学研究法3 型式学研究・土器型式論、縄文土器研究の略史
- 【第5回】考古学研究法4 考古学と自然科学(産地推定など)
- 【第6回】考古学研究法5 炭素14年代測定原理(『縄文時代の実年代講座』第2～5講)
- 【第7回】考古学史1 明治・大正期の人類学研究と考古学
- 【第8回】考古学史2 戦前・戦後期の土器編年研究史(山内清男)
- 【第9回】考古学史3 縄文集落研究史(和島集落論・水野集落論)
- 【第10回】日本考古学の諸問題 縄文土器編年と年代研究(『縄文社会研究の新視点』2章)
- 【第11回】日本考古学の諸問題 縄文中期環状集落論・竪穴住居ライフサイクル論
- 【第12回】日本考古学の諸問題 縄文中期大橋集落フェイズ論
- 【第13回】日本考古学の諸問題 年代測定から見た縄文集落(『縄文社会研究の新視点』3章)
- 【第14回】日本考古学の諸問題 年代測定から見た縄文文化の動態(『縄文社会研究の新視点』4章)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

プライベートな時間に、近隣の博物館・資料館に足を運び、興味ある特別展・企画展の見学に努めてほしい。また、考古学・文化財などに関する新聞・雑誌記事やテレビのニュース・特集番組などにも接し、講義内容の理解度を高めてほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 定期試験は実施しない。数回の課題レポートを課す。その内容を基準とする。
平常点	50% 授業の受講態度の状況と、毎回の受講後の小テストの内容を基準とする。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:課題レポートを提出していない受講者は、評価の対象外とするので、十分に注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

発掘調査担当者として発掘調査・整理作業に従事した経験がある。

実務経験に関連する授業内容

発掘調査の方法を紹介するほか、考古学・埋蔵文化財に関する実践、文化財行政に関する運営と課題などについても講義において触れる。

テキスト・参考文献等

- (主要参考文献)
『縄紋社会研究の新視点』(小林謙一著、六一書房,2019年第2版)ISBN978-4-86445-012-6
『縄紋時代の実年代講座』(小林謙一著、同成社,2019) ISBN978-4-88621-815-5
*レポートなどで利用することがあります。

その他参考文献

- 小林達雄編『考古学ハンドブック』新書館、2007年(ハンドブックシリーズ) ISBN978-4-403-25088-0
- 鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会、1988年 ISBN4-13-022051-9
- 鈴木公雄『読む・知る・愉しむ 考古学がわかる事典』日本実業出版社、1997年 ISBN4-534-02618-8
- 鈴木公雄『考古学はどんな学問か』東京大学出版会、2005年 ISBN4-13-023052-2
- チャイルド、V. G著、近藤義郎訳『考古学の方法』河出書房新社、1981年
- ラウス、アーヴィング著、鈴木公雄訳『先史学の基礎理論』雄山閣、1974年

オフィスアワー

その他特記事項

後期・考古学Bを続けて履修することが望ましい。

参考URL

<http://www.kkenichi001k.r.chuo-u.ac.jp/>

備考

科目名：考古学B**担当教員：小林 謙一**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：月1

配当年次：2・3年次担当

科目ナンバー：LE-AR2-F206

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA0827

更新日時：2025-11-23 20:47:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本歴史を構築し、日本文化を考えていくのに物質文化による再構成としての考古学的手法は重要である。考古学研究を目指すもの、歴史研究を目指すものにとって必要不可欠と言える考古学的研究法の基礎を理解してもらう目的で、学史を含め概括的に講義する。同時に博物館学芸員を目指すものにとっても、博物館資料を理解し研究し修復・保管・演示などで扱っていくには、考古学的素養は不可欠であり、一般的なことから専門的なことまで講義したい。なお、具体的なケーススタディでは、縄紋時代など日本先史時代を中心とするが必要に応じて対象とする範囲を広げる。

科目目的

考古学の概要を理解して貰う。

到達目標

考古学の基本的な方法論を理解する。

授業計画と内容

- 【第1回】考古文化の研究 縄紋はいつから？(『縄紋時代の実年代講座』10講)
- 【第2回】考古文化の研究 初現期土器と東アジア(『縄紋時代の実年代講座』10講)
- 【第3回】考古文化の研究 貝塚遺跡・岩陰遺跡土器型式編年研究,
- 【第4回】考古文化の研究 早期～前期の土器(『縄紋時代の実年代講座』6講)
- 【第5回】考古文化の研究 縄紋中期勝坂文化と阿玉台文化(『縄紋時代の実年代講座』7講)
- 【第6回】考古文化の研究 縄紋中期加曾利E式・曾利式・大木式(『縄紋時代の実年代講座』7講)
- 【第7回】考古文化の研究 縄紋後晚期土器文化、盛土・石棒・敷石(『縄紋時代の実年代講座』8・9講)
- 【第8回】考古文化の研究 低湿地遺跡研究
- 【第9回】考古文化の研究 縄紋の終末から弥生文化の成立(教科書13講)
- 【第10回】考古文化の研究 弥生から古墳へ
- 【第11回】考古文化の研究 古代国家形成過程と邪馬台国問題
- 【第12回】日本考古学の現在 前中期旧石器ねつ造事件と考古学
- 【第13回】日本考古学の現在 災害と考古学
- 【第14回】日本考古学の現在 現代社会と考古学

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% レポート内容

平常点	50%	小テストなど
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の小テストを必ず受けること。指示されたレポートは必ずすべて提出すること。全回数の3割以上の小テストを受けていない場合、指示されたレポートを1つでも提出していない場合は評価の対象外となる。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

発掘調査担当者として発掘調査・整理作業に従事した経験がある。

実務経験に関連する授業内容

発掘調査の方法を紹介するほか、考古学・埋蔵文化財に関する実践、文化財行政に関する運営と課題などについても講義において触れる。

テキスト・参考文献等

(主要参考文献)
『縄紋社会研究の新視点』(小林謙一著、六一書房,2019年第2版)ISBN978-4-86445-012-6
『縄紋時代の実年代講座』(小林謙一著、同成社,2019) ISBN978-4-88621-815-5
*レポートなどで利用することがあります。

その他参考文献
小林達雄編『考古学ハンドブック』新書館、2007年(ハンドブックシリーズ) ISBN978-4-403-25088-0
鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会、1988年 ISBN4-13-022051-9
鈴木公雄『読む・知る・愉しむ 考古学がわかる事典』日本実業出版社、1997年 ISBN4-534-02618-8
鈴木公雄『考古学はどんな学問か』東京大学出版会、2005年 ISBN4-13-023052-2
チャイルド、V. G 著、近藤義郎訳『考古学の方法』河出書房新社、1981年
ラウス、アーヴィング著、鈴木公雄訳『先史学の基礎理論』雄山閣、1974年

オフィスアワー

その他特記事項

前期・考古学Aを履修していることが望ましい。

参考URL

<http://www.kkenichi001k.r.chuo-u.ac.jp/>

備考

科目名： 日本近世史A**担当教員： 山崎 圭**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月4

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F207

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA0534

更新日時：2025-12-25 17:49:5

授業形式

すべての授業回について面接授業を行う。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本近世史研究の中で、特に村・地域社会に関係する研究の大まかな動向について説明し、現段階での研究の到達点を確認する。なお、この講義では、論拠となる史料を毎回提示して、説明を加えながら論を進めていく。毎回じっくり取り組めば、近世史料の基本的な読み方にも習熟することができるはずである。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す、専門的学識を学生が身につけることを目的とする。

到達目標

日本近世史研究の、特に村・地域社会に関係する研究の大まかな動向について理解し、現段階での研究の到達点について説明できること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 小百姓の村の成立①小領主の支配
3. 小百姓の村の成立②小農共同体の形成
4. 幕藩領主と百姓の関係①「御救」の論理
5. 幕藩領主と百姓の関係②「御百姓」意識
6. 近世の身分①身分集団
7. 近世の身分②身分制社会
8. 村落共同体論①村の再評価、無年季的質地請戻し慣行
9. 村落共同体論②幕府法と村法
10. 近世の地主小作関係と村
11. 幕府領支配のしくみ①簡素な支配機構
12. 幕府領支配のしくみ②代官所役人
13. 近世地域社会論
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

参考文献の内から授業に関係すると思われるものを、可能な範囲で事前に読んでみる。授業後には、manabaの「小テスト」に課題を提出すると同時に、できるだけ授業で取り上げた論文や書籍を自ら読んでみる。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	到達度を確認するため主に論述形式の試験を行う。
レポート	0%	
平常点	50%	授業を聞いて理解した内容を、毎回、manabaの「小テスト」に記述してもらう。その点数の合計を平常点とする。ただし、出席率が70%に満たない者はE判定とする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。

《参考文献》
山崎圭『近世幕領地域社会の研究』(校倉書房、2005年)。
『日本近世史を見通す』1～7巻(吉川弘文館、2023年)。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本近世史B**担当教員： 山崎 圭**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月4

配当年次：2・3年次担当

科目ナンバー：LE-JH2-F208

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA0534

更新日時：2025-12-25 18:11:4

授業形式

すべての授業回について面接授業を行う。

履修条件・関連科目等

日本近世史A

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在、私たちは地震、台風等、様々な災害に悩まされているが、近世においても人びとは多くの災害に直面していた。この授業では、この時代に生きた人びとがどのように災害に向き合ったかを検討することを通じて、近世社会のあり方について考える。なお、特論として関東地域の近世史についても取り上げる。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す専門的学識を学生が身につけることを目的とする。

到達目標

災害と社会の関わりについて歴史的に考えることができるようになること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 環境と開発
3. 開発と災害
4. 富士山噴火
5. 浅間山噴火①被害と政策
6. 浅間山噴火②地域の取り組み
7. 享保飢饉・天明飢饉
8. 【特論1】近世の関東地域①支配の特質と地域社会
9. 【特論2】近世の関東地域②江戸地廻り経済圏の形成
10. 天保飢饉
11. 慶応期凶作
12. 千曲川洪水と地域社会①18世紀
13. 千曲川洪水と地域社会②19世紀
14. まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

参考文献の内から授業に関係すると思われるものを、可能な範囲で事前に読んでみる。授業後には、manabaの「小テスト」に課題を提出すると同時に、できるだけ授業で取り上げた論文や書籍を自ら読んでみる。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	到達度を確認するため主に論述形式の試験を行う。
レポート	0%	
平常点	50%	授業を聞いて理解した内容を、毎回、manabaの「小テスト」に記述してもらう。その点数の合計を平常点とする。ただし、出席率が70%に満たない者はE判定とする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:なし
参考文献:下記のもの以外は授業時に指示する。
水本邦彦『草山の語る近世』(山川出版社、2003年、日本史リブレット52)。
永原慶二『富士山宝永大爆発』(集英社新書、2002年)。
菊池勇夫『近世の飢饉』(吉川弘文館、1997年)。
山崎圭『幕末千曲川の治水と地域社会』(『中央大学文学部紀要・史学』65号、2020年)。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本近現代史A**担当教員： 井上 直子**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火3

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F209

登録者：admin

登録日時：2025-10-22 06:51:3

更新者：XEC606

更新日時：2026-01-11 21:46:5

授業形式

すべての授業回について、対面授業をおこないます。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本史学のみならず歴史学研究において、これまでなされてきた研究の歩み(研究史)を正確に把握し、その内容を理解することは、当該研究の到達点や課題、あるいは分析手法等を知る意味で最も基礎的な作業であると同時に、これから研究を進めていくうえで不可欠なことです。

本講義では、日本近代史(前期では1880年代～1920年代)の主要な事象をめぐる研究史の論点について、政治・経済・社会・思想・文化といった多角的な視点からこれまでの研究動向を整理し、現状と課題および展望について概説します。

科目目的

これまでの研究の歩みを学ぶことを通じて、日本近現代史への理解を深めることはもとより、歴史学的な思考と方法のための専門的な学識を身に付けることを目的とします。

到達目標

本講義で学んだ日本近現代史およびその研究史に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の研究につなげて考察し、より複眼的な思考ができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス:授業の進め方について
- 第2回 戦後歴史学と日本近現代史研究
- 第3回 明治維新・文明開化①政治・社会
- 第4回 明治維新・文明開化②国境・ナショナリズム
- 第5回 自由民権運動
- 第6回 大日本帝国憲法と近代天皇制
- 第7回 医療・衛生と近代科学
- 第8回 日清戦争・日露戦争
- 第9回 植民地台湾、植民地朝鮮
- 第10回 農村と近代
- 第11回 近代都市の形成
- 第12回 関東大震災と災害
- 第13回 日本近代史研究と史料・自治体史
- 第14回 総括・まとめ:日本近代史研究のこれから

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の講義で紹介する文献にあたり、復習に努めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
レポート	0%	
平常点	30%	リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席(リアクションペーパーの提出)が全開講回数半数に満たない者は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回板書と資料の配布により講義を進めます。参考文献はそのつど紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本近現代史B**担当教員： 井上 直子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火3

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F210

登録者：admin

登録日時：2025-10-22 06:51:3

更新者：XEC606

更新日時：2026-01-11 21:46:3

授業形式

すべての授業回について、対面授業をおこないます。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本史学のみならず歴史学研究において、これまでなされてきた研究の歩み(研究史)を正確に把握し、その内容を理解することは、当該研究の到達点や課題、あるいは分析手法等を知る意味で最も基礎的な作業であると同時に、これから研究を進めていくうえで不可欠なことです。

本講義では、日本近現代史(後期は1920年代以降)の主要な事象をめぐる研究史の論点について、政治・経済・社会・思想・文化といった多角的な視点からこれまでの研究動向を整理し、現状と課題および展望について概説します。

科目目的

これまでの研究の歩みを学ぶことを通じて、日本近現代史への理解を深めることはもとより、歴史的な思考と方法のための専門的な学識を身に付けることを目的とします。

到達目標

本講義で学んだ日本近現代史およびその研究史に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の研究につなげて考察し、より複眼的な思考ができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス:授業の進め方について
- 第2回 大正デモクラシー
- 第3回 昭和初期の政治史
- 第4回 アジア・太平洋戦争①政治・社会
- 第5回 アジア・太平洋戦争②前線・銃後
- 第6回 敗戦と占領
- 第7回 戦後の政治と社会
- 第8回 象徴天皇制
- 第9回 平和運動・文化運動・日本の歴史学
- 第10回 高度経済成長と公害
- 第11回 日本現代史研究と史料
- 第12回 日本近現代史研究と自治体史
- 第13回 日本現代史研究と聞き取り・オーラルヒストリー
- 第14回 総括・まとめ:日本現代史研究のこれから

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の講義で配布する資料や紹介した文献にあたり、復習に努めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
レポート	0%	
平常点	30%	リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席(リアクションペーパーの提出)が全開講回数半数に満たない者は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回板書と資料の配布により講義を進めます。参考文献はそのつど紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 古文書学(1)

担当教員： 神崎 直美

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 2・3年次配当

科目ナンバー： LE-PL2-F211

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:54:1

更新者： AB4011

更新日時： 2026-01-09 19:18:4

授業形式

全ての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近世史研究の基礎力を養うことを目的といたしますので、当講義では近世の古文書を広義な定義ととらえます。対象としては、いわゆる古文書が主ですが、書籍や刷り物、ビジュアル史料についても扱います。近世古文書の概要を理解していただいてから、その多彩な世界について、それぞれ説明します。講義に際しては、近世の古文書の原物を持参しますので、受講生に回覧して説明する時間も予定しています。

科目目的

近世史研究に不可欠である近世の古文書について、その体系を知識として学び、さらに教室で原物を見る・手に取る体験をすることにより、言葉を越えた真の理解をすることが目的です。

到達目標

受講生各自が知識として多彩な近世の古文書について語る事が可能となり、自らが近世史研究を行う際にテーマにした古文書の原物が所蔵されている史料収蔵機関を探ることができ、積極的に原物を閲覧することの大切さを認識して行動できること、さらに授業で紹介した参考書類を駆使して書籍の解題を作成できることが目標です。

授業計画と内容

- ① 授業の説明
- ② 近世の古文書…特徴を中心として
- ③ 近世の古文書…分類・作成主体・体裁
- ④ 幕府文書…旧幕府引継書
- ⑤ 幕府文書…その他の史料
- ⑥ 藩政文書…著名な藩政文書
- ⑦ 藩政文書…その種類
- ⑧ 大名家文書…私的な古文書
- ⑨ 地方文書…保存の歴史、及びその種類
- ⑩ 地方文書…続・その種類
- ⑪ 寺社文書・公家文書、その他
- ⑫ 書籍…体裁とその種類、及び、解題作成実習 ※解題作成実習はグループワーク
- ⑬ ビジュアル史料…錦絵・刷り物について
- ⑭ まとめ…近世の古文書の活用について

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

近世古文書に関する参考図書類を、授業の際に教室に持参して紹介・回覧します。それらの図書については、必ず各自で授業後にも充分閲覧して、使いこなせるようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	授業で説明した事項を確実に理解していることを問います。
レポート	0%	
平常点	40%	リアクションペーパーを折々に実施します。授業で修得した知識・体験を基に、各自が考察したことを問います。解題作成実習の成果も平常点の対象です。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

史料収蔵施設で実習をするかわりに、担当教員が毎時間、古文書の原物を持参して、説明・回覧します。受講生はそれを実際に手に取ることにより、様々な近世の古文書を理解していただきます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

自主学習支援(授業外学修)として、manabaを使い当科目の知識を深めることができる。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

大和市文化財審議委員会委員(2012年8月～現在)

実務経験に関連する授業内容

近世古文書の保存に関する現状や実務についても、授業で具体例としてふれます。

テキスト・参考文献等

特になし。プリントを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

毎時間、古文書を手に取る体験は貴重です。説明のポイントを理解して、原物を手にしてよく眺めてください。なお、連絡事項は授業の際に教室でお伝えしますが、緊急事項はmanabaで連絡します。

参考URL

備考

科目名： 古文書学(2)**担当教員： 小林 一岳**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月2

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-PL2-F212

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AD1158

更新日時：2026-01-09 07:36:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

歴史を研究するためには、史料が必要であることはもちろんです。歴史史料には文字に書かれた文字史料や、考古史料や絵画史料などの非文字史料がありますが、文書は文字史料の中でも多くの情報を得ることができる重要なものになります。しかし、文書を歴史史料として扱うためには、その様式や機能などの基礎的な知識が必要です。そのような、文書についての学問を古文書学といいます。この授業は、古文書の基礎的な知識を習得するとともに、基本的な中世文書を読み解きながら、中世の古文書についての概要を把握するためのものです。文書の様式や機能を通じて、古文書の背景にある中世の国家や社会のあり方などについて学ぶことになります。

古文書学(2)では、朝廷や鎌倉幕府・室町幕府、戦国大名が出した発給文書を中心に、中世国家のあり方や、国家からみた中世社会のあり方について学ぶことにします。

なお、本講義は古文書の「くずし字」の読解については一部扱いますが、それを主な目的とするものではないので、その旨を了解してください。

科目目的

文学部の日本史関係科目の目的である、「日本の歴史に関する深い知識を身に付けることができる。及び様々な事柄に対する高い情報収集力・分析力を養うことができる。」ということに関連する科目です。

古文書から得られる情報をその内容だけではなく、様式や機能も含めて収集・分析し、深い歴史研究につなげていく能力を育成することを目的とします。

到達目標

古文書の様式や機能について基礎的な知識を獲得し、説明することができる。古文書の様式・機能についての学びを前提として中世の国家と社会の関係を理解して説明することができる。その際、鎌倉幕府と室町幕府の違いやその特質、戦国大名権力の特質について、古文書を通して説明できる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンスー歴史資料の中の古文書
- 第2回 古文書の基礎知識ー変体漢文・くずし字・花押・料紙等
- 第3回 古文書の作成と伝来ー案文と正文・発給と受給・伝来
- 第4回 朝廷・貴族の文書ー宣旨・官宣旨・下文
- 第5回 天皇・院の文書ー綸旨・令旨・院宣
- 第6回 鎌倉幕府の文書① 下文・御教書
- 第7回 鎌倉幕府の文書② 奉書・下知状・裁許状
- 第8回 鎌倉幕府の文書③ 訴状・問状・陳状・召文
- 第9回 室町幕府の文書① 下文・下知状・御判御教書
- 第10回 室町幕府の文書② 戦争の文書(軍勢催促状・軍忠状・着到状・感状)
- 第11回 室町幕府の文書③ 奉書・遵行状
- 第12回 戦国大名の文書① 直状・書下・判物
- 第13回 戦国大名の文書② 書状・印判状
- 第14回 授業のまとめ・レポート

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容に関する簡単な課題・レポートを提出する

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	100% 授業内容を理解した上で、説明できるかどうかを評価する。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献
・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局2003年
・飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』吉川弘文館2017年
・久留島典子・五味文彦『史料を読み解く1 中世文書の流れ』山川出版社2008年
・薊米一志『日本史を学ぶための 古文書・古記録訓読法』吉川弘文館2019年
・小島道裕『中世の古文書入門』河出書房新社2019年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 古文書学(3)**担当教員： 小林 一岳**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月2

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-PL2-F213

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AD1158

更新日時：2026-01-09 07:37:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

歴史を研究するためには、史料が必要であることはもちろんです。歴史史料には文字に書かれた文字史料や、考古史料や絵画史料などの非文字史料がありますが、文書は文字史料の中でも多くの情報を得ることができる重要なものになります。しかし、文書を歴史史料として扱うためには、その様式や機能などの基礎的な知識が必要です。そのような、文書についての学問を古文書学といいます。この授業は、古文書の基礎的知識を習得するとともに、基本的な中世文書を読み解きながら、中世の古文書についての概要を把握するためのものです。文書の様式や機能を通じて、古文書の背景にある中世の国家や社会のあり方などについて学ぶことになります。

古文書学(3)では、前期の古文書学(2)で主に扱った鎌倉幕府や室町幕府、戦国大名等の国家や権力が発給した文書に対して、主に中世の地域社会に関連する古文書を扱うことになります。

具体的には寺社に残された文書や武士に関する文書、荘園支配の文書や村関係の文書になります。それらの文書を通して中世社会の特質について学ぶことにします。

なお、本講義は古文書の「くずし字」の読解については一部扱いますが、それを主な目的とするものではないので、その旨を了解してください。

科目目的

文学部の日本史関係科目の目的である、「日本の歴史に関する深い知識を身に付けることができる。及び様々な事柄に対する高い情報収集力・分析力を養うことができる。」ということに関連する科目です。

古文書から得られる情報をその内容だけではなく、様式や機能も含めて収集・分析し、深い歴史研究につなげていく能力を育成することを目的とします。

到達目標

古文書の様式や機能について基礎的な知識を獲得し、説明することができる。古文書の様式・機能についての学びを前提として、中世の国家と社会の関係を理解して説明することができる。その際特に、寺社に残される文書や武士に関する文書、荘園支配のための文書や村関係の文書などを通して、中世社会の特質について理解し、古文書を通して説明できる。

授業計画と内容

- 第1回 地域社会の中の古文書
- 第2回 寺社の文書① 起請文
- 第3回 寺社の文書② 寄進状
- 第4回 武士の文書① 譲状
- 第5回 武士の文書② 置文と一門評定
- 第6回 武士の文書③ 書状(高幡不動胎内文書)
- 第7回 武士の文書④ 一揆契状
- 第8回 荘園の文書① 荘園支配の文書(検注帳・算用状・結解状・請文)
- 第9回 荘園の文書② 荘官関係文書
- 第10回 荘園の文書③ 荘家の一揆(沙汰人百姓等申状)
- 第11回 村と一揆の文書① 村の紛争文書
- 第12回 村と一揆の文書② 村掟
- 第13回 村と一揆の文書③ 惣国一揆掟
- 第14回 授業のまとめ(偽文書)・レポート

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容に関する簡単な課題・レポートを提出する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	100% 授業内容を理解した上で、説明できるかどうかを評価する。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献
・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局2003年
・飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』吉川弘文館2017年
・久留島典子・五味文彦『史料を読み解く1 中世文書の流れ』2008年
・薊米一志『日本史を学ぶための 古文書・古記録訓読法』吉川弘文館2019年
・小島道裕『中世の古文書入門』河出書房新社2019年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本文化史A**担当教員： 小野 一之**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水2

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JH3-F401

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AD1156

更新日時：2025-12-26 11:05:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本の古代から中世に至る文化の展開を、個別の事象や地域史からの視点でとりあげ、文化史の流れを考えていきます。文献史料を中心にしながらも、パワポで図版を多用し美術作品や史跡にもあたりながら講義します。毎回の授業終了後に、感想・意見・質問等を記入したリアクションペーパーを提出してもらいます。

科目目的

文化史を歴史のわき役ではなく、政治・経済・社会の動きと連動した事象として捉え、総合的に歴史を俯瞰していけるようになることを目的とします。

到達目標

日本文化史を文献史料と資料・史跡に基づいて考え、今日的な課題に対しても考えが持てるようになることを目標とします。また今後の文化事業・文化財保全業務・博物館事業にあたる際の基礎学習になることも目標とします。

授業計画と内容

- ① はじめに—日本文化史の方法
- ② 祭礼—基層文化を探る
- ③ 聖徳太子—もう一つの日本文化史
- ④ 都城—都市文化史の展開
- ⑤ 寺院—飛鳥寺と元興寺、古代から中世へ
- ⑥ 仏像—興福寺・戦う寺の仏教文化
- ⑦ 庭園—宮殿の庭・寺院の庭
- ⑧ 墓—天皇陵古墳と中世民衆墓
- ⑨ 旅—旅する官人・僧・民衆
- ⑩ 多摩川—地域文化史①
- ⑪ 東山道と鎌倉街道—地域文化史②
- ⑫ 万葉集東歌と防人歌—地域文化史③
- ⑬ 共生の文化史—瀬文・渡来人・蝦夷
- ⑭ まとめ—古代・中世の文化形成

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回、関連する図書、博物館・美術館、寺社・史跡などを随時紹介しますので、関心のあるテーマについて理解を深めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 課題に対する理解とオリジナリティを評価します。

平常点 70% リアクションペーパー等による講義に対する参加度を評価します。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
 - その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

府中市郷土の森博物館で学芸員・館長(2021年度まで。現在は府中市・入間市の文化財保護審議会委員などを兼務)として、博物館運営・文化財活用・地域振興などに携わってきました。

実務経験に関連する授業内容

地域の文化財資料の調査や保全・活用の経験から文化史の視点を提示します。

テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しませんが、毎回、参考文献を紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本文化史B**担当教員： 神崎 直美**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F402

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AB4011

更新日時：2026-01-09 19:22:0

授業形式

全ての授業回について面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

幕末の大老として名高い井伊直弼の姉であり、延岡藩内藤家の奥方となった充姫—後の充真院—は、文才・画才に恵まれ、著作物を執筆した稀な大名夫人です。充真院は信仰心が厚く、先祖に対する崇敬の思いも深く、菩提寺に参詣したり、転居のための旅(江戸・延岡)の途中で、数多くの寺社に参詣しました。充真院を具体的事例として、大名夫人の寺社参詣について理解を深めます。

なお、充真院が訪れた寺社について、教員が現地を訪れて撮影した写真データを映写する時間を各寺社参詣の最後の回に設定し、仮想寺社参詣を体験していただきます。

科目目的

近世史研究において、未だ実証的な研究が乏しく不明な点が多い大名夫人について、当科目では寺社参詣の具体例を紀行文や藩政文書から明らかにし、近世女性史・文化史の知識を習得することが目的です。さらには女性史・文化史研究の方法論を考察することも目的です。

到達目標

近世の女性史・文化史の新知識を修得すること、史料の探し方や方法論を知り、考察して、自らの研究の際に応用できることが目標です。さらに主人公である充真院の人物像を寺社参詣の実態・姿勢から知り、前向きな生き方をはじめ、各自の人生の糧にすることも目標です。

授業計画と内容

- 第1回 大名夫人と寺社参詣、及び、充真院の人生の概略①
- 第2回 充真院の人生の概略②
- 第3回 相模国鎌倉・光明寺①…菩提寺の光明寺
- 第4回 " ②…旅の準備
- 第5回 " ③…鎌倉での日々 ※現地撮影画像映写…仮想光明寺参詣
- 第6回 三河国大樹寺・西光寺①…三河国と内藤家の所縁
- 第7回 " ②…大樹寺と信楽院
- 第8回 " ③…西光寺と内藤家墓所
※現地撮影画像映写…仮想大樹寺・西光寺参詣
- 第9回 大坂寺社参詣①…高津宮・新清水寺・安居天神
- 第10回 " ②…四天王寺・住吉大社 ※現地撮影画像映写…仮想大坂寺社参詣
- 第11回 讃岐国金毘羅①…金毘羅信仰と大名家
- 第12回 " ②…初めての参詣
- 第13回 " ③…2度目の参詣 ※現地撮影画像映写…仮想金毘羅参詣
- 第14回 寺社参詣を通して明らかとなった充真院の人物像

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 授業で説明した内容を正しく理解しているかを判定します。
レポート	0%
平常点	50% 授業の冒頭に、前回の復習としてQ&Aを実施します。積極的に発言してください。学期中に3,4回のグループディスカッション、及びリアクションペーパーを実施します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

学期中に3,4回、グループディスカッションを実施します。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

自主学習支援(授業外学修)として、manabaを使い当科目の知識を深めることができます。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストを用いて授業を進めます。テキストは下記の通りです。
神崎直美著『幕末大名夫人の寺社参詣一日向国延岡藩内藤充真院・統一』岩田書院 2021年4月刊行
補足プリントも配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

テキストは必ず講義の際に必携してください。連絡事項は授業教室でお伝えしますが、緊急事項についてはmanabaで連絡します。

参考URL

備考

科目名： 日本思想史A**担当教員： 宮田 純**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 木6

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JH3-F403

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AD1514

更新日時：2025-11-17 08:52:0

授業形式

すべての授業回について、対面授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

テーマ：日本史に関する歴史的な資料・人物・社会情勢を素材としながら、古代～近代における諸相との相関関係を整理し、ひいては、思想的理解に造詣を深める。歴史的な情報を享受する機会や古文書と向き合う機会が多い授業となります。

授業形態：講義形式を採用するが、ディスカッションの時間・古文書解読に基づく受講生による報告の時間も確保したい。

科目目的

思想と時代背景の相関関係についての知見を高めながら、過去の現象についての思想的意義に関する理解を深めることを目的とします。

到達目標

受講生が思想史の理解に基づきながら、日々の反応力や判断力に応用できるようにする。

授業計画と内容

概略：前期の授業は日本思想史の通史的理解を深める内容となります。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本思想史の通史的理解について
- 第3回 日本思想史との向き合い方について
- 第4回 日本思想史を組成するさまざまな情報について
- 第5回 前半の小括とミニ・ディスカッション
- 第6回 日本思想史と人物
- 第7回 日本思想史と制度
- 第8回 日本思想史と社会
- 第9回 中間の小括とミニ・ディスカッション
- 第10回 日本思想史とその現代性(1)―政策への反映を中心として―
- 第11回 日本思想史とその現代性(2)―教育への反映を中心として―
- 第12回 日本思想史とその現代性(3)―経済への反映を中心として―
- 第13回 後半の小括とミニディスカッション
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	ペーパーの使用による試験を実施。
レポート	0%	
平常点	30%	リアクションペーパーの作成。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席の場合は単位認定が不可能となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとしてレジюмеを配布します。参考書は適宜、紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

★要注意★「古文書・翻刻版・くずし字など」を多く読む機会となります。担当の割り当てもあるので、史学科(日本史学)の2年生の修学水準にあることがのぞましい。

参考URL

備考

科目名： 日本思想史B**担当教員： 宮田 純**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 木6

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JH3-F404

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AD1514

更新日時：2025-11-17 08:54:0

授業形式

すべての授業回について、対面授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

テーマ：日本史に関する歴史的な資料・人物・社会情勢を素材としながら、日本が外部から受容した各種情報整理し、ひいては、思想的理解に造詣を深める。歴史的な情報を享受する機会や古文書と向き合う機会が多い授業となります。

授業形態：講義形式を採用するが、ディスカッションの時間・古文書解読に基づく受講生による報告の時間も確保したい。

科目目的

日本が受容した各種情報についての知見を高めながら、日本思想史の形成過程に関する理解を深めることを目的とします。

到達目標

受講生が授業内容に基づきながら、日々の反応力や判断力に反映できるようにする。

授業計画と内容

概略：後期の授業は近世思想の通史的理解を深める内容となります。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近世日本思想史の通史的理解について
- 第3回 近世日本思想史との向き合い方について
- 第4回 近世日本思想史を組成するさまざまな情報について
- 第5回 前半の小括とミニ・ディスカッション
- 第6回 近世日本思想史と人物
- 第7回 近世日本思想史と制度
- 第8回 近世日本思想史と社会
- 第9回 中間の小括とミニ・ディスカッション
- 第10回 近世日本思想史とその現代性(1)―政策への反映を中心として―
- 第11回 近世日本思想史とその現代性(2)―教育への反映を中心として―
- 第12回 近世日本思想史とその現代性(3)―経済への反映を中心として―
- 第13回 後半の小括とミニディスカッション
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	ペーパーの使用による試験を実施。
レポート	0%	
平常点	30%	リアクションペーパーの作成。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席の場合は単位認定が不可能となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとしてレジюмеを配布します。参考書は適宜、紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

★要注意★「古文書・翻刻版・くずし字など」を多く読む機会となります。担当の割り当てもあるので、史学科(日本史学)の2年生の修学水準にあることがのぞましい。

参考URL

備考

科目名： 日本政治・法制史A**担当教員： 白根 靖大**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F405

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA0326

更新日時：2025-12-10 18:09:2

授業形式

面接授業

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

院政期について、多角的な視座から理解を深める。具体的には、後三条天皇の登場から白河院政が成立し鳥羽院政へと展開する過程、武士が台頭し保元の乱および平治の乱に至る流れなどについて、貴族と武士あるいは中央と地方といった複数の視点から学ぶ。また、荘園整理令あるいは新制という法令に着目し、それらの歴史的意義などを考える。

科目目的

時代の流れを複眼的にとらえる目を養い、社会の方向性を多角的に考える思考力を養成する。

到達目標

日本史に関する専門的知識を得るとともに、物事の諸側面を見て理解し、多角的な歴史像を描けるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 時代の概観
- 第2回 後三条天皇の登場
- 第3回 荘園整理令
- 第4回 白河院政
- 第5回 鳥羽院政
- 第6回 院政の権力構造
- 第7回 院政期の武士
- 第8回 後三年合戦
- 第9回 奥州藤原氏
- 第10回 源氏と東国武士
- 第11回 保元の乱
- 第12回 保元の新制
- 第13回 平治の乱
- 第14回 総括(学習成果の確認)

※履修者の理解度や授業の進度に応じて、計画を変更する場合がある。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業後、manabaにおいて小テストを実施する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 60% 論述式の試験において、知識の羅列ではなく、因果関係や諸側面の関係性などを総合的に理解し、的確に論述して

いるかを評価する。

レポート	0%
平常点	40% 毎回の授業後に実施する小テストにおいて、授業の理解度を評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が70%に満たない者、または無断欠席が4回連続した者は、成績評価の対象外とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献を授業中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

授業は板書を中心に進める。講義形式ではあるが「考える日本史」を目指す。

参考URL

備考

科目名： 日本政治・法制史B**担当教員： 白根 靖大**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F406

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA0326

更新日時：2025-12-10 18:01:4

授業形式

面接授業

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

武士政権が成立していく時代について、複数の視点から多角的に理解を深める。具体的には、後白河院政と平氏および源氏、奥州藤原氏と朝廷および鎌倉幕府、後鳥羽院政と鎌倉幕府など、立場の異なる諸勢力の実相や関係性を明らかにしながら、当時の政治史を考える。また、新制という法令に着目し、その歴史的意義などについて学ぶ。

科目目的

時代の流れを複眼的にとらえる目を養い、社会の方向性を多角的に考える思考力を養成する。

到達目標

日本史に関する専門的知識を得るとともに、物事の諸側面を見て理解し、多角的な歴史像を描けるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 時代の概観
- 第2回 後白河院政
- 第3回 平氏政権
- 第4回 治承・寿永の乱—以仁王の乱と内乱の拡大—
- 第5回 治承・寿永の乱—諸勢力の攻防—
- 第6回 奥州合戦
- 第7回 鎌倉幕府の成立と建久の新制
- 第8回 北条氏の台頭
- 第9回 後鳥羽院政
- 第10回 承久の乱
- 第11回 北条泰時と九条道家
- 第12回 御成敗式目と寛喜の新制
- 第13回 鎌倉中期の公武政権
- 第14回 総括(学習成果の確認)

※履修者の理解度や授業の進度に応じて、計画を変更する場合がある。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業後、manabaにおいて小テストを実施する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	論述式の試験において、知識の羅列ではなく、因果関係や諸側面の関係性などを総合的に理解し、的確に論述しているかを評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回の授業後に実施する小テストにおいて、授業の理解度を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が70%に満たない者、または無断欠席が4回連続した者は、成績評価の対象外とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献を授業中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

授業は板書を中心に進める。講義形式ではあるが「考える日本史」を目指す。

参考URL

備考

科目名： 日本社会経済史A**担当教員： 山崎 善弘**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：木4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F407

登録者：admin

登録日時：2025-10-22 06:51:3

更新者：XEC607

更新日時：2026-01-09 00:39:3

授業形式

すべての授業回で面接授業を行う。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、日本における社会経済の歴史的展開を、中世末期から現代に至るまで概観する。単なる制度や事件の解説にとどまらず、土地制度、市場の形成、貨幣流通、そして人々の生活基盤がいかに変容したかを、「社会」と「経済」の相互関係から考察する。とくに近世から近代への移行過程に焦点を当て、その連続性と断絶の両面を検討することで、日本社会経済史の特質を立体的に理解することを目指す。

科目目的

日本社会経済史の基本構造を理解し、現代の日本社会が抱える諸課題(経済格差、地方の疲弊、産業構造の変化など)の歴史的根源を探る。その過程を通じて、歴史的事象を構造的・因果的に捉える視点を身につけ、現代社会を相対化して考察する力を養うことを目的とする。

到達目標

1. 日本社会経済史の主要な転換点(兵農分離、地租改正、高度経済成長など)の内容を説明できる。
2. 土地制度、税制、貨幣・金融といった各要素が、社会構造や人々の生活とどのように結びついていたのかを理解する。
3. 日本の経済発展の歴史的特質を、史実に基づいて論じることができる。

授業計画と内容

1. ガイダンス: 社会経済史の視点と日本社会
2. 中世社会の変容と兵農分離: 太閤検地と石高制の意義
3. 近世幕藩領主制の成立と土地制度: 村落の形成
4. 近世農業の展開と農村経済の変化: 商品作物の普及
5. 三都の発展と市場構造: 流通網の整備と三貨制度
6. 近世の金融システムと信用経済: 両替商の役割と藩札の流通
7. 幕末の開国と世界経済への編入: 物価高騰と社会変容
8. 明治維新と経済改革: 地租改正と幣制改革
9. 殖産興業と初期産業革命: 寄生地主制の形成
10. 両大戦間期の日本経済: 重化学工業化と恐慌への対応
11. 戦時経済体制と社会の変容: 計画経済の影響
12. 戦後復興と農地改革・財閥解体: 経済民主化のゆくえ
13. 高度経済成長期の構造変化: 都市化と消費社会の到来
14. 総括: 日本社会経済史の特質と現代

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で使用するレジュメを適宜manabaへ事前にアップするので目を通しておくこと。また、授業後にはレジュメやノートをもとに内容を整理し、授業中に紹介した論文・書籍を積極的に参照することが望ましい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 到達度を確認するため、主に論述型の試験を行う。
レポート	0%
平常点	50% 授業への参加、受講態度、課題への対応から評価する。ただし、出席率が70%に満たない者は単位修得不可とする。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う場合がある。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業は基本的に講義形式であるが、適宜ディスカッション・ディベートも織り交ぜながら進めることにする。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

プロジェクターの使用に加え、manabaを用いて史資料の提示・共有を行う。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 使用しない。
参考文献: 適宜授業中に提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本社会経済史B**担当教員： 山崎 善弘**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：木4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F408

登録者：admin

登録日時：2025-10-22 06:51:3

更新者：XEC607

更新日時：2026-01-09 00:38:0

授業形式

すべての授業回で面接授業を行う。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近世の社会経済を支えた実態的基盤である「村」を舞台に、村役人の実務を通じて近世の社会構造と経済システムを分析する。指定テキスト『村役人のお仕事 増補改訂版』に基づき、名主や大庄屋などが、領主・村・市場の結節点(中間層)としてどのように振る舞い、地域の資源管理や富の再分配などを担ったのかを考察する。とくに近世後期における豪農・地主層の台頭に注目し、それらが国家・領主支配機構の末端へと組み込まれていく過程を、「日本の社会経済構造」の特質という観点から検討する。

科目目的

近世の村役人の多様な職務(行政・経済・司法)の実態を学ぶことで、当時の社会構造を多層的に理解する。あわせて、村を単なる「自治」の場として理想化するのではなく、支配機構の末端としての機能や中間層の役割を客観的に分析する手法を習得することを目的とする。史料に基づく具体的事例分析を通じて、社会経済史研究の基礎的な研究視角を身につけることも、本科目の到達点とする。

到達目標

1. 村役人の実務(年貢徴収、金融、救済など)から、近世の経済メカニズムを具体的に説明できる。
2. 「中間層(豪農・地主)」が、地域社会の維持と幕藩体制の補完において果たした経済的役割を理解する。
3. 史料の記述に基づき、日本的な統治・経済構造の特質を具体的事例を挙げながら、論理的に考察できる。

授業計画と内容

1. ガイダンス:近世社会における「中間層」としての村役人
2. 村政の委任関係と行政事務の発生:算用と始末
3. 租税システムの実務:年貢の賦課・徴収
4. 領主財政窮乏と仕送り:仕送りの実務と農民の負担
5. 生産基盤の維持と公共事業:道普請・水利の管理
6. 人口把握と労働力管理:宗門人別改帳の社会経済的機能
7. 交通経済の維持と地域社会:宿駅助郷役の調整と負荷
8. 広域行政の成立:改革組合村と地域の再編
9. 地域経済の多角化:「余業」の展開と市場流通への介入
10. 社会保障と危機管理:社会政策に見る農村金融と救済
11. 司法機能と経済紛争の解決:裁判による秩序維持
12. 領地経営のパートナーとしての豪農:藩財政改革への参画
13. 近世から近代へ:村役人の変容と明治維新の社会的基盤
14. 総括:日本の社会構造と経済発展の歴史的背景

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で使用するレジュメを適宜manabaへ事前にアップするので目を通しておくこと。授業後は、授業内容を復習すると同時に、授業中に取上げた論文や書籍をできるだけ読むこと。指定テキストについては、該当章を精読したうえで授業に臨むことが望ましい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 到達度を確認するため、授業内容の理解を測るレポートを課す。
平常点	50% 授業への参加、受講態度、課題への対応から評価する。ただし、出席率が70%に満たない者は単位修得不可とする。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う場合がある。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業は基本的に講義形式であるが、適宜ディスカッション・ディベートも織り交ぜながら進めることにする。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

プロジェクターの使用に加え、manabaを用いて史資料の提示・共有を行う。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:『村役人のお仕事 増補改訂版』(東京堂出版、2026年)。
参考文献:適宜授業中に提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 対外関係史A**担当教員： 米谷 均**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F411

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AC8778

更新日時：2026-01-02 15:43:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日韓関係は「関係改善が必要」と言われつつも、かつてのように「近くて遠い国」になりつつある。その一因は、不可逆的に解消したはずの両国の「歴史問題」が、なぜか常態的に蒸し返されて続けたからである。かかる状況下にて、我々はどのようにして隣国に接すればよいのであろうか？。

本授業は、対馬と沖縄(琉球)の対外交渉に焦点を絞り、東アジア・東南アジア海域の交流史を検討する。対馬と沖縄は、日本本土から見れば「辺境」であるが、同時に日朝関係・日中関係の「窓口」でもあった。両者の「立ち位置」を考察することを通じて、前近代東アジア外交の特質についても検討する。また授業においては、画像や動画を活用し、可能であれば、このジャンルに関連した特集番組などを披露したい。

科目目的

東シナ海域・南シナ海域における交流史を、外交・戦争・貿易・掠奪・文化交流などの諸側面から、多角的に検討する。具体的には、対馬と沖縄(琉球)を軸に、前近代における日本とアジア諸地域との相互交流史を理解する。

到達目標

講義内容を十分に理解した上で、様々な資料に対する分析能力の獲得し、課題に対する調査能力を習得することを目標にする。

授業計画と内容

- 第1回 I 授業の概説(対馬と琉球の歴史概説)
- 第2回 II『対馬宗氏と応永の外寇』1 宗氏の対朝鮮通交／応永の乱と日本社会への影響
- 第3回 III『高麗・朝鮮仏教文物の日本渡来』1 日本伝来の経緯
- 第4回 2 仏教文物に対する日朝両国の姿勢の相違
- 第5回 3 高麗・朝鮮仏画の評価／文物とナショナリズム
- 第6回 IV『倭館の世界』1 中世倭館と近世倭館の沿革と様相／倭館における罪と罰
- 第7回 2 倭館における食文化の交流／倭館周辺の物見遊山
- 第8回 V『「南島」琉球」世界のイメージ』1 古代日本と「南島」／中国の「流求」像
- 第9回 2 中世日本の境界観／「流求」から「琉球」へ
- 第10回 VI『琉球王国の対外貿易と外国人社会』1 「万国の架け橋」としての琉球
- 第11回 2 琉球の華人社会／琉球の日本人社会
- 第12回 VII『琉球と日本との関係史』1 室町幕府と琉球との通交／細川氏の通交関与
- 第13回 2 大内氏の琉球通交／島津氏の琉球通交
- 第14回 教場試験とまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業前に前の回に配布したレジュメに必ず目を通した上で聴講すること。また、授業内容の復習を必ず行い、課題が提示された場合はそれに取り組むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 最終回における教場試験の評価(素点)。
レポート	10% 自由提出の感想レポート。
平常点	10% 授業への参加度。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 参考文献
- :大石直正・高良倉吉・高橋公明編『周縁から見た中世日本』(講談社。日本の歴史14。2001年)
 - :豊見山和行編『琉球・沖縄史の世界』(吉川弘文館。日本の時代史18。2003年)
 - :佐伯弘次『対馬と海峡の中世史』(山川出版社。歴史リブレット77。2008年)
 - :関周一『対馬と倭寇』(高志書院。高志書院選書8。2012年)
 - :橋本雄『偽りの外交使節―室町時代の日朝関係―』(吉川弘文館。2012年)
 - :荒木和憲『対馬宗氏の中世史』(吉川弘文館。2017年)
 - :黒嶋敏・屋良健一郎編『琉球史科学の船出』(勉誠出版。2017年)
 - :池内敏『絶海の碩学―近世日朝外交史研究―』(名古屋大学出版会。2017年)
 - :松方冬子編『国書がむすぶ外交』(東京大学出版会。2019年)
 - :真栄平房昭『琉球海域史論』(榕樹書林。2020年)
 - :酒井雅代『近世日朝関係と対馬藩』(吉川弘文館。2021年)
 - :程永超『華夷変態の東アジア』(清文堂。2021年)
 - :池内敏『徳川幕府朝鮮外交史研究序説』(清文堂。2024年)
 - :浜田久美子・佐々木真編『歴史のなかの外交儀礼』(続文堂出版。2025年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 対外関係史B**担当教員： 米谷 均**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F412

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AC8778

更新日時：2026-01-02 15:47:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在、日中関係は前にも増して冷え冷えとしている。また「台湾有事」問題や尖閣諸島問題など、予断を許さぬ事態が発生する可能性が、常に存在している。かかる問題に直面した時、我々はどうのように対応すべきであろうか？。本授業は、「近くて遠い」日中関係史を軸に、書籍や文物や情報の交流と、それを担った海商や僧侶などの動きを考察し、前近代における東アジア外交の特質について検討する。それと比較対照するために、東アジア世界を大航海時代のキリスト教世界から俯瞰してみる。そして異文化の衝突という視点からみた相互不理解の様相を考察する。また授業においては、画像や動画URLを活用し、可能であれば、このジャンルに関連した特集番組や映画などを紹介したい。

科目目的

東シナ海域・南シナ海域における交流史を、外交・戦争・貿易・掠奪・文化交流などの諸側面から、多角的に検討する。具体的には、対馬と沖縄(琉球)を軸に、前近代における日本とアジア諸地域との相互交流史を理解する。

到達目標

講義内容を十分に理解した上で、様々な資料に対する分析能力の獲得し、課題に対する調査能力を習得すること。

授業計画と内容

- | | |
|------|---|
| 第1回 | I 授業の概説 |
| 第2回 | II『東アジア世界におけるブック・ロード』1「本の道」と日中関係／佚存書の還流 |
| 第3回 | 2 近世から明治以降における書籍の流れ |
| 第4回 | III『中国渡海の日本人僧の「身分証明書」』1 遣唐使の時代／入宋「巡礼僧」の時代 |
| 第5回 | 2 遊学僧の時代／明の海禁と遊学の終焉 |
| 第6回 | IV『東シナ海域の季節風と遣明船』1 遣明船の航路／航海技術／航海信仰 |
| 第7回 | 2 遣明船における客死／日中船舶の構造相違 |
| 第8回 | V『遣明船と文化交流』1 漢詩文の応酬と肖像贊・行状記など |
| 第9回 | 2 送別詩をめぐる虚々実々(偽造行為) |
| 第10回 | V『キリスト教世界から見た東アジア』1 カトリック教国の「世界分割」構想 |
| 第11回 | 2 イエズス会とフランシスコ会の抗争 |
| 第12回 | VII『秀吉の伴天連追放令とキリシタン教界』1 豊臣秀吉とバテレンたちの相互不理解 |
| 第13回 | 2 バテレン追放令はなぜ発令されたのか |
| 第14回 | 教場試験とまとめ |

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業前に前の回に配布したレジュメに必ず目を通した上で聴講すること。また、授業内容の復習を必ず行い、課題が提示された場合はそれに取り組むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 最終回の教場試験の評価(素点)。
レポート	10% 自由提出の感想レポート
平常点	10% 授業への参加度。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 参考文献
- : 高瀬弘一郎『キリシタン時代の研究』(岩波書店。1977年)
 - : 五野井隆史『日本キリスト教史』(吉川弘文館。1990年)
 - : 荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係』全7巻(吉川弘文館。2010年～)
 - : 榎本 渉『僧侶と海商たちの東シナ海』(講談社[選書メチエ]。2010年)
 - : 久芳 崇『東アジアの兵器革命』(吉川弘文館。2010年)
 - : 橋本 雄『"日本国王"と勘合貿易』(NHK出版。2013年)
 - : 村井章介編『日明関係史研究入門』(勉誠出版。2015年)
 - : ルシオ・デ・ソウザ 岡美穂子『大航海時代の日本人奴隷』(中央公論新社。2017年)
 - : 松方冬子編『国書がむすぶ外交』(東京大学出版会。2019年)
 - : 川村信三編『キリシタン歴史探求の現在と未来』(教文館。2021年)
 - : 程 永超『華夷変態の東アジア』(清文堂。2021年)
 - : 小俣ラポー日登美『殉教の日本』(名古屋大学出版会。2023年)
 - : 清水有子『近世日本の形成とキリシタン』(吉川弘文館。2024年)
 - : 田中史生編『日中関係史』(吉川弘文館。2025年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 明治維新史A**担当教員： 宮間 純一**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水5

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JH3-F413

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AA1830

更新日時：2025-11-28 00:35:2

授業形式

原則対面とするが、一部の回について、実施方法をオンライン／オンデマンドに変更することがある。
その場合は、manabaにて受講生に連絡する。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

明治維新の「通史」について、政治・外交・社会・文化史上の主要なテーマを取り上げながら講義する。後期に開講し、各論を取り上げる「明治維新史B」を理解するための基礎知識ともなる。

科目目的

近代日本の発端に位置付けられている明治維新の通史を学び、その全体像を把握する。授業を通じて受講生なりに歴史像を再構築するとともに、明治維新が日本社会にもたらした功罪を考える力を養う。

到達目標

明治維新の通史を「暗記する」のではなく、講義で示された事柄を咀嚼し、現在との関わりのなかで独自の歴史意識を持てるようになる。

授業計画と内容

- 1 明治維新と現在
- 2 明治維新史研究の動向
- 3 世界史の中の明治維新
- 4 幕末政治史の諸課題(ペリー来航前後)
- 5 幕末政治史の諸課題(開国以降)
- 6 幕末政治史の諸課題(尊攘運動の展開)
- 7 幕末政治史の諸課題(王政復古)
- 8 幕末政治史の諸課題(戊辰戦争)
- 9 明治政府の諸改革(太政官制の発足)
- 10 明治政府の諸改革(廃藩置県)
- 11 明治政府の諸改革(身分制度の解体)
- 12 明治政府の諸改革(文明開化)
- 13 明治政府の諸改革(明治初期の外交)
- 14 明治政府の諸改革(西南戦争まで)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

課題(小テスト)は授業時間内で完結できる問題を出す、〆切りまでに提出すれば授業時間外でも可とする。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%

平常点	100%	毎回講義の内容に関連した小テスト(200字から800字)を課す。13回分を各7点で採点し、最終回の14回のみ9点配点とする。なお、合計点にかかわらず小テストの提出回数が10回に満たない者は不合格とする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の小テストの採点基準は以下の通り。(第14回は自己の見解の説得力に応じて2点分加点する)

7点: 講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を説得的・理論的に展開できている。

6点: 講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を述べる事ができている。

5点: 講義の内容をまとめているが、自己の見解が不十分である。

4点: 講義の内容をまとめているが、自己の見解がほとんど見られない。

3点: 講義の内容をまとめているが、自己の見解がまったくない。

2点: 講義の内容の一部がまとめられている。

1点: 講義の内容をまとめているが、不正確な箇所が多い。

0点: 講義の内容と関係のない記述しかない。

※生成AIが作成した回答の提出、剽窃、他人の回答のコピー等の不正を1回でも発見した場合は、理由にかかわらず即不合格とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

〈参考文献〉

宮間純一『明治維新という物語』(中央公論新社、2025年)

宮地正人『幕末維新変革史』上下(岩波書店、2012年)

松尾正人『維新政権』(吉川弘文館、1995年)

オフィスアワー

その他特記事項

テキスト・レジュメは必要に応じて配布する。

講義に関する質問はメールで受け付ける。

参考URL

科目名: 明治維新史B

担当教員: 宮間 純一

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 水5

配当年次: 3・4年次担当

科目ナンバー: LE-JH3-F414

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:54:1

更新者: AA1830

更新日時: 2025-11-28 00:32:4

授業形式

原則対面とするが、一部の回について、実施方法をオンライン／オンデマンドに変更することがある。
その場合は、manabaにて受講生に連絡する。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

幕末から明治期に中央・地方で起きた具体的な出来事について史料を提示しながら解説する。

科目目的

近代日本の発端として語られてきた明治維新の各論(身分、ジェンダー、天皇など)を学ぶことで、その全体像を受講生なりに再構築するとともに、明治維新が日本社会にもたらした功罪を考える力を養う。

到達目標

明治維新に関する各テーマを「暗記する」のではなく、講義で示された事柄を咀嚼し、現在との関わりのなかで独自の歴史意識を持てるようになる。

授業計画と内容

- 1 天皇と明治維新
- 2 公家の明治維新
- 3 幕臣の明治維新
- 4 豪農の明治維新
- 5 多摩の明治維新
- 6 島の明治維新
- 7 女性の明治維新
- 8 被差別民の明治維新
- 9 大名の明治維新
- 10 藩士の明治維新
- 11 下級武士の明治維新
- 12 宗教者の明治維新
- 13 明治維新と「功臣」
- 14 明治維新史研究の総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

課題(小テスト)は授業時間内で完結できる問題を出すのが、べ切りまでに提出すれば授業時間外でも可とする。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | |
|------|----|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |

レポート	0%	
平常点	100%	毎回講義の内容に関連した小テスト(200字から800字)を課す。13回分を各7点で採点し、最終回の14回のみ9点配点とする。なお、合計点にかかわらず小テストの提出回数が10回に満たない者は不合格とする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の小テストの採点基準は以下の通り。(第14回は自己の見解の説得力に応じて2点分加点する)

7点:講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を説得的・理論的に展開できている。

6点:講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を述べる事ができている。

5点:講義の内容をまとめているが、自己の見解が不十分である。

4点:講義の内容をまとめているが、自己の見解がほとんど見られない。

3点:講義の内容をまとめているが、自己の見解がまったくない。

2点:講義の内容の一部がまとめられている。

1点:講義の内容をまとめてはいるが、不正確な箇所が多い。

0点:講義の内容と関係のない記述しかない。

※生成AIが作成した回答の提出、剽窃、他人の回答のコピペ等の不正を1回でも発見した場合は、理由にかかわらず即不合格とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(参考文献)

宮間純一『明治維新という物語』(中央公論新社、2025年)

明治維新史学会編『講座明治維新』1～12(有志舎、2010年～2018年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 記録史料学A

担当教員： 下重 直樹

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 月4

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-PL3-F415

登録者： admin

登録日時： 2025-10-22 06:52:0

更新者： XEC608

更新日時： 2026-01-01 17:38:5

授業形式

すべての授業回について、対面授業をおこないます。

履修条件・関連科目等

必須ではないが、後期に「記録史料学B」をあわせて履修することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、アーカイブズに関する二つのテーマに焦点を当てます。第一はアーカイブズという存在それ自体について。アーカイブズというものがどのようにして現代までに形作られ、かつ社会のなかで位置づけられてきたのかを、理論や方法、これを支える専門職員(アーキビスト)をめぐる経時の変化から考えます。第二はアーカイブズが担う機能について。代表的なアーカイブズである公文書館でおこなわれている各種の業務(記録の評価選別・収集、編成と記述、保存、利用等)を具体的な事例や演習をまじえて考察し、その意義と課題について明らかにします。

科目目的

歴史補助科学を知的基盤の一つとして発展してきた記録史料学は、現在ではアーカイブズ学(Archival Science)とも呼ばれています。アーカイブズという言葉は、学問的には将来にわたって保存すべき記録のことを指し、かつそうした記録を適切に管理・公開する公文書館に代表される施設を指す言葉として定義されています。したがって、記録史料学とは過去から現代にいたる記録について、あるいはアーカイブズ機関やその機能について研究する学問です。とはいえ、記録の何について研究するのかこの定義だけでは分からないし、公文書館といわれても日本においてはまだまだ認知度が低いこの施設についてどのような研究が成り立つのかと、疑問に思う人もいるかもしれません。この講義では、こうした疑問に答えることを出発点として、記録史料学の基礎を学ぶことで、その専門的学識を身に付けることを目的とします。事前の知識はさほど必要としませんが、広範なテーマを取り扱います。したがって、講義では必要に応じて映像や演習等をまじえつつ、記録史料学の現状や課題について履修者とともに考えていきます。また、日本史学はもとより歴史学を専攻する学生にとって、卒業論文の執筆に向けた自身の研究のなかでは、記録(史料)に基づく事実の解明や分析・解釈が求められます。その際、記録に書かれた内容(コンテンツ)に注目することはもちろんのことですが、それだけではなく、記録が作成・管理されてきた背景や文脈(コンテキスト)を探ることも大切なことです。あるいは、記録の調査研究のためにアーカイブズ機関を訪問することもあるでしょう。このような点で、歴史学と記録史料学は密接な関係を有するものですから、この講義を通して、履修者それぞれの研究に資する情報や素材を提供していきたいと思っています。

到達目標

本講義で学んだ記録史料やアーカイブズ機関に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の歴史研究につなげて考察することができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- <序説>
- 第1回 ガイダンス—記録・アーカイブズと人間
- 第2回 アーカイブズとアーキビストの歴史
- 第3回 アーカイブズ学の基本概念—出所と原秩序
- <認識とその手法>
- 第4回 記録・アーカイブズを認識する—組織とその機能を知る
- 第5回 記録・アーカイブズを認識する—記録の発生から保存・廃棄まで
- <取得までのプロセス>
- 第6回 調査と評価選別—なぜ必要なのか?
- 第7回 調査と評価選別—その具体的アプローチ
- <整理と保存>
- 第8回 アーカイブズを保存する—編成と目録の記述
- 第9回 アーカイブズを保存する—劣化要因と保存の方法
- <利用者へのアプローチ>
- 第10回 利用者とアクセス—利用者へのアプローチ
- 第11回 利用者とアクセス—ポリシーとサービスの改善
- <アーカイブズを支える人々>
- 第12回 アーキビストの「リアル」—キャリアデザインと生活
- 第13回 アーキビストには何ができるのか?
- 第14回 総括・まとめ・到達度確認

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習は不要ですが、各回の講義で学んだ内容について、参考文献にあたるなどして復習することは必要です。その作業を通して、記録史料学やアーカイブズへの理解をさらに深めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
レポート	0%
平常点	30% リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席(リアクションペーパーの提出)が全開講回数半数に満たない者は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

国立公文書館や内閣府(公文書管理法令所管部門)に勤務(2009年4月～2017年3月)、制度の構築や運用、アーカイブズ資料の保存とアクセスの実務に携わった経験を有しています。

実務経験に関連する授業内容

アーカイブズ学の理論や方法が、公文書館の現場においてどのように受容され、また実践されているかを、これまでの経験をふまえてつづつ講述したいと思います。

テキスト・参考文献等

テキストとして下重直樹・湯上良編『アーキビストとしてはたらくー記録が人と社会をつなぐー』(山川出版社、2022年、ISBN978-4-634-59125-7)を使用します。

このほか、毎回資料を配付してそれをもとに講義を進めます。
参考文献についてはそのつど紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 記録史科学B**担当教員： 下重 直樹**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-PL3-F416

登録者：admin

登録日時：2025-10-22 06:52:0

更新者：XEC608

更新日時：2026-01-02 09:06:2

授業形式

すべての授業回について、対面授業をおこないます。

履修条件・関連科目等

日本近代のくずし字について一定の読解能力を必要とします。
また、必須ではないが、前期に「記録史科学A」を履修しておくことが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、「記録史科学A」で学んだ内容をふまえて、公文書館等に収蔵されるアーカイブズ資料(記録史料)の認識と資源研究に焦点を当てます。現代にいたるまで記録がどのように保存・利用されてきたのか、経時的な理解を得るとともに実際にアーカイブズ資料の調査と分析をおこなうことで、資料を認識し、情報資源として活用、持続的管理につなげるための理解を深めます。なお、担当教員の専門の関係上、近現代の記録に関する講義が中心となります。

科目目的

歴史補助科学を知的基盤の一つとして発展してきた記録史科学は、現在ではアーカイブズ学(Archival Science)とも呼ばれています。アーカイブズという言葉は、学問的には将来にわたって保存すべき記録のことを指し、かつそうした記録を適切に管理・公開する公文書館に代表される施設を指す言葉として定義されています。したがって、記録史科学とは過去から現代にいたる記録について、あるいはアーカイブズ機関やその機能について研究する学問です。とはいえ、記録の何について研究するのかこの定義だけでは分からないし、公文書館といわれても日本においてはいまだ認知度が低いこの施設についてどのような研究が成り立つのかと、疑問に思う人もいるかもしれません。この講義では、こうした疑問に答えることを出発点として、記録史科学の基礎を学ぶことで、その専門的学識を身に付けることを目的とします。事前の知識はさほど必要としませんが、広範なテーマを取り扱います。したがって、講義では必要に応じて映像や演習等をまじえつつ、記録史科学の現状や課題について履修者とともに考えていきます。また、日本史学はもとより歴史学を専攻する学生にとって、卒業論文の執筆に向けた自身の研究のなかでは、記録(史料)に基づく事実の解明や分析・解釈が求められます。その際、記録に書かれた内容(コンテンツ)に注目することはもちろんのことですが、それだけではなく、記録が作成・管理されてきた背景や文脈(コンテキスト)を探ることも大切なことです。あるいは、記録の調査研究のためにアーカイブズ機関を訪問することもあるでしょう。このような点で、歴史学と記録史科学は密接な関係を有するものですから、この講義を通して、履修者それぞれの研究に資する情報や素材を提供していきたいと思っています。

到達目標

本講義で学んだ記録史料やアーカイブズ機関に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の歴史研究につなげて考察することができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス:授業の進め方について
- 第2回 公文書の成り立ちとその構造を理解する
- 第3回 記録・アーカイブズ研究の方法①
- 第4回 記録・アーカイブズ研究の方法②
- 第5回 近代日本の公文書管理:歴史的概観
- 第6回 現代日本の公文書管理:同時代的考察
- 第7回 記録・アーカイブズの調査と講読①
- 第8回 記録・アーカイブズの調査と講読②
- 第9回 記録・アーカイブズの調査と講読③
- 第10回 記録・アーカイブズの調査と講読④
- 第11回 記録・アーカイブズの調査と講読⑤
- 第12回 研究発表と討議①
- 第13回 研究発表と討議②
- 第14回 総括・まとめ・到達度の確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

アーカイブズ資料の調査と分析、各回の講義で学んだ内容について、参考文献にあたるなどして復習することは必要です。その作業を通して、記録史学やアーカイブズへの理解をさらに深めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
レポート	0%
平常点	50% リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容を受けて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席(リアクションペーパーの提出)が全開講回数半数に満たない者は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

国立公文書館や内閣府(公文書管理法令所管部門)に勤務(2009年4月～2017年3月)、制度の構築や運用、アーカイブズ資料の保存とアクセスの実務に携わった経験を有しています。

実務経験に関連する授業内容

アーカイブズ学の理論や方法が、公文書館の現場においてどのように受容され、また実践されているかを、これまでの経験をふまえてつづ講述したいと思います。

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回資料を配布してそれをもとに講義を進めます。参考文献はそのつど紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本宗教史A**担当教員： 石津 裕之**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火3

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F417

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AD0986

更新日時：2025-12-18 10:51:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近世における宗教について、仏教を中心に講義を行う。授業は対面方式である。宗教は多様な視点から考察することができるが、この授業では宗教を司った宗教者のあり様について解説を行う。具体的には、江戸幕府による宗教者に対する統制、宗教者の身分、宗教者と社会の関係などについて講義することとし、宗教者としては特に僧侶を中心に取り上げる。また、門跡や修験といった、一般にはあまり馴染みのない、仏教と関係した近世の宗教者についても紹介する。

科目目的

近世といえば、士・農・工・商のイメージが強いが、実は、僧侶をはじめとする宗教者も社会の重要な構成員であり、他の身分の者には代替できない役割を国家・社会の中で果たしていた。その事実を踏まえるとき、宗教者のあり様を理解することは、近世の時代像を理解することに繋がるといえるだろう。この授業では、近年の研究成果にも目配りしながら、近世の宗教者がどのような制度の下で、いかなる願望・葛藤を抱えながら、民衆とともに生きていたかを紹介する。この授業での学びを通じて、僧侶をはじめとする近世の宗教者のあり様を理解するとともに、それを手がかりとして、近世の時代像についても理解を深めてもらいたい。

到達目標

- ・近世の宗教者のあり様について、基礎的な知識を習得し、自分の言葉で他者に説明できるようになる。
- ・近世の宗教者のあり様から見えてくる、江戸時代の国家・社会の姿について、自分の言葉で他者に説明できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近世の前提としての中世の宗教構造①(中世前期)
- 第3回 近世の前提としての中世の宗教構造②(中世後期)
- 第4回 織田・豊臣政権による寺院・僧侶統制
- 第5回 幕府による寺院・僧侶統制
- 第6回 江戸時代の僧侶の身分
- 第7回 僧位僧官の制度
- 第8回 寺院・僧侶と社会①(仏教と社会の回路)
- 第9回 寺院・僧侶と社会②(仏教思想をめぐる動向)
- 第10回 幕府による門跡統制の全体像
- 第11回 輪王寺門跡をめぐる様相
- 第12回 朝廷における門跡の位置づけ
- 第13回 近世における修験
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業中に紹介する参考文献を読んで関連事項について理解を深めるとともに、身近にある宗教に関する現象(寺社参詣や葬祭など)について、歴史的に考える習慣を身につけること。また、各授業の冒頭では、前回授業へのフィードバック(感想の紹介や質問への回答)を行うため、必ず前回授業の復習をしてから授業に臨むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 指定したテーマについて、講義内容を踏まえる形で、正確かつ具体的に叙述できるかを評価する。持ち込みは不可とする。
レポート	0%
平常点	40% 授業後にmanabaを通じて提出してもらった感想で評価する。授業を受けて、どのようなことを考えたのかが明示できているかを重視する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業を受けて疑問に思ったことや質問がある場合は、授業後に提出する感想の中で言及してもらい、次回授業の冒頭で時間の許す限り、回答するようにする。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
タブレット端末
その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは無し。毎回の授業でレジュメを配布する。レジュメは一部の語句が空欄になっているので、授業に出席して自分で埋めること。参考文献は授業の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・第1回の授業では、授業の進め方や成績評価などについての詳細を説明するので、履修希望者は必ず出席すること。
- ・連絡事項が生じた場合、manabaのコースニュースに掲示するので、こまめにチェックすること。

参考URL

備考

科目名： 日本宗教史B**担当教員： 繁田 真爾**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火3

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JH3-F418

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:1

更新者：AD1431

更新日時：2025-12-12 16:13:3

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「近現代日本宗教史」をテーマとする授業。講義形式とする。

本授業では、幕末維新期から20世紀までの日本宗教史を概観する。宗教と国家・社会の関係、そして時代ごとの人びとの信仰のあり方を検討することで、日本の「近代」の意味や歴史的な位置づけについて考えてみたい。

科目目的

卒業論文の作成につながるように、広く深い視野で歴史に向き合う研究姿勢を身につける。政治史や経済史とは異なる思想・宗教史の視座から、日本近現代史を批判的に考察することができる問題意識の獲得をめざす。

到達目標

受講生が講義の内容を理解したうえで、それぞれの問題関心にもとづいて問いを立て、文献に当たり、史料を検討して考察することで、自身の見解を持つことができるようになる。

授業計画と内容

1. 近現代日本宗教史を学ぶ：視座と論点
2. 幕末・維新期の宗教：新政府の宗教政策
3. 維新期から明治中期の宗教(1)神道・仏教
4. 維新期から明治中期の宗教(2)キリスト教・民衆宗教
5. 明治後期の宗教(1)立憲体制の確立と宗教
6. 明治後期の宗教(2)戦争と社会問題
7. 大正期の宗教(1)「宗教的なもの」の広がり
8. 大正期の宗教(2)デモクラシー状況と宗教
9. 昭和前期の宗教(1)総力戦体制と宗教
10. 昭和前期の宗教(2)アジア太平洋戦争と宗教
11. 戦後の宗教(1)占領期
12. 戦後の宗教(2)戦後政治と宗教
13. 現代日本と宗教
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義内容で疑問や関心を持った点について、参考文献を参照しながら本を読み、学びを深めること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 授業内容をよく理解してそれを適切に論述・説明することができるか評価する。
レポート	0%

平常点 50% 授業の出席状況および提出されたレビューシートの内容により評価する。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【参考文献】島菌進・末木文美士・大谷栄一・西村明編『近代日本宗教史』(全6巻、春秋社、2020～2021年)。
その他の参考文献は、授業中にその都度紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：文化財学A**担当教員：須田 英一**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：火4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-HE3-F419

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:2

更新者：AC9669

更新日時：2026-01-12 15:23:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文化財は保存するだけでなく、その活用に政策の重点が置かれてきている。世界遺産が国内外で大きな関心を集める中、文化財保護に視野の広がりも求められてきている。特に埋蔵文化財(遺跡)保護行政のシステムを、考古学研究との関わりにも触れながら学ぶと共に、近年の文化政策の展開も視野に入れながら、文化財の保存と活用についての知識と、実務に展開可能な適応力を身につける講義を展開する。

科目目的

混沌とした現代社会の中で、文化財は地域社会にうるおいを与えてくれる文化遺産の一つである。特に遺跡(埋蔵文化財)は地域教材として学校教育や生涯学習などの教育分野、景観を形成する一要素としてまちづくりなどの都市計画分野、地域アイデンティティーとしての地域社会とのつながりなど、現代社会との関わりも深く、文化財行政は文化政策の中で大きな支脈を形成している。遺跡を保護する行政を埋蔵文化財行政学と位置付け、行政の基本的枠組について理解を深める。さらに考古学研究との関わりにも言及し、埋蔵文化財を幅広く文化遺産の一つとして考えると共に、文化財を現代社会との関わりの中で捉える態度を身につける。この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識」・「複眼的思考」を習得することを目的としている。

到達目標

この科目では、埋蔵文化財を中心とした文化財行政のシステムを学ぶことを通じて、行政職員としての施策の進め方を把握し、埋蔵文化財を文化財の一つとして幅広く考えられるようになると共に、教育・都市計画・景観・まちづくりなど、現代社会との関わりの中で広く活用という視点でも捉えられるようになることを到達目標とする。また、埋蔵文化財に限らず、文化財の多様なかたちとその保存・活用のための国内外の制度やしぐみを学び、広い視野をもって文化財保護に関してその問題点を説明できるようになることも到達目標としたい。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、文化財の種類・区分と埋蔵文化財、保存の意義
- 第2回 埋蔵文化財に関する制度・行政のシステム(1) 近代における文化財保護
- 第3回 埋蔵文化財に関する制度・行政のシステム(2) 文化財保護法の制定とその意義
- 第4回 埋蔵文化財と埋蔵文化財行政学(1) 埋蔵文化財とは
- 第5回 埋蔵文化財と埋蔵文化財行政学(2) 埋蔵文化財専門職員に求められる能力
- 第6回 埋蔵文化財の保存 遺跡の保存・整備
- 第7回 埋蔵文化財の活用 遺跡の活用、埋蔵文化財の普及
- 第8回 文化政策と埋蔵文化財 近年の文化政策の展開と埋蔵文化財を取り巻く環境
- 第9回 文化財の保護と世界遺産 世界遺産条約の成り立ちとしくみ
- 第10回 文化財の再生と活用(1) 歴史的建造物の保存と活用
- 第11回 文化財の再生と活用(2) 伝統的建造物群の保存と活用
- 第12回 文化財の再生と活用(3) 名勝・天然記念物の保存と活用
- 第13回 文化財の保存・活用と文化財支援団体 文化遺産の保存・活用とNPO・ボランティア活動
- 第14回 総括・まとめ 現代における文化財の保存・活用と今後の展開と役割

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

プライベートな時間に、近隣の埋蔵文化財センター・博物館などにも足を運び、埋蔵文化財の活用事業にも参加して欲しい。また、文化財

や史跡などに関する新聞・雑誌記事やテレビのニュース・特集番組などにも接し、講義内容の理解度を高めて欲しい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	60% 定期試験は実施しない。学期末の課題レポートを課す。その内容を基準とする。
平常点	40% 授業の受講態度の状況と、毎回のリアクションペーパーの内容を基準とする。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

1988年9月～1991年12月、慶應義塾藤沢校地理蔵文化財調査室勤務、発掘担当者として発掘調査、整理作業に従事
1994年4月～2010年3月、神奈川県三浦市教育委員会社会教育課文化財保護係勤務、文化財担当者として発掘調査・整理作業、資料館運営、公開・普及事業、庶務事務、その他に従事
2011年10月～2013年3月、慶應義塾大学矢上地区文化財調査室勤務、担当者として整理作業に従事

実務経験に関連する授業内容

大学の調査機関、自治体での実務経験を通じて、資料館運営に関する基本的な知識と運用、文化財行政に関する運営と課題などについて講義する。

テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布する。下記以外の参考文献については適宜紹介する。
稲田孝司『日本とフランスの遺跡保護』岩波書店、2014年 ISBN978-4-00-025974-3
須田英一『遺跡保護行政とその担い手』同成社、2014年 ISBN978-4-88621-676-2
土屋正臣『市民参加型調査が文化を変える』美学出版、2017年 ISBN978-4-902078-46-6
和田勝彦『遺跡保護の制度と行政』堂成社、2015年 ISBN978-4-88621-709-7

オフィスアワー

その他特記事項

考古学など歴史学を専攻して学芸員課程を履修している学生にとって、専攻と社会との関わりを考える絶好の機会になると思う。また、地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。講義では埋蔵文化財に関わる最新のニュースなどにも触れるので、必ずしもシラバス通りの進行にならない場合がある。

参考URL

備考

科目名：文化財学B**担当教員：長佐古 真也**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：火6

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-HE3-F420

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:2

更新者：AC8304

更新日時：2026-01-13 21:31:1

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

史料をはじめとする様々な様態の文化財(遺産)の価値を正しく後世に伝えること、すなわち“保存”することの意味について考えることから始めます。次いで、この保存を妨げる“劣化”について、資料素材の性質や周囲の環境の観点から実例を交えて紐解くことで、文化財のリスクマネジメントと具体的な対処法への理解を深めます。

科目目的

資料(史料)に関わる当事者の責務として、眼前の資料を如何に健全な状態を保ちながら後世に伝えるかを常に意識する理念とこれを実践するための基礎知識を身につけることが目的です。

到達目標

文化財の恒久保存を踏まえた正しい取り扱いが自然に行えるような意識の醸成を目指します。そのためには、基礎的知識と対処の基本に対する理解はもちろん、これらを単なるマニュアルとして暗記するのではなく、置かれた状況・環境や立場に応じて柔軟に対処し、自ら問題解決の糸口を導き出すことを意識しながら履修を進めてください。

授業計画と内容

- 第1週 資料(史料)を後世に伝えることの意味を考える
- 第2週 資料劣化の内的要因と対処の基本／有機物素材1(植物質)
- 第3週 資料劣化の内的要因と対処の基本／有機物素材2(樹脂・動物質)
- 第4週 資料劣化の内的要因と対処の基本／無機物素材1(金属種)
- 第5週 資料劣化の内的要因と対処の基本／無機物素材2(金属の腐蝕)
- 第6週 資料劣化の内的要因と対処の基本／無機物素材3(金属以外)
- 第7週 資料劣化の外的要因と対処の基本／温湿度
- 第8週 資料劣化の外的要因と対処の基本／空気質とその制御
- 第9週 資料劣化の外的要因と対処の基本／光と照明
- 第10週 資料劣化の外的要因と対処の基本／生物劣化とIPM
- 第11週 資料劣化の外的要因と対処の基本／災害等とリスクマネジメント
- 第12週 劣化資料修復の考え方
- 第13週 資料保存の多様性と将来
- 第14週 総括

※ 内容によっては週を跨ぐ場合があります。

また、進捗の状況によっては、内容が前後する場合があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

本講義は独自のレジュメを用いますので、特に受講後の復習と自らの興味や視点に基づく発展学習に重点を置いて理解を深めてください。講義に対する自らの理解度を自覚するためにも、受講後のリアクションレポートは重要です。これを含め、提出を求められた課題は遺漏・遅滞なく提出してください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	講義で得た知識や思考法を駆使し、問われた状況に対してどのように対処するかという設問への対応を中心に評価します。
レポート	0%	
平常点	50%	講義後のリアクションレポートの提出状況および内容の充実度について評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席率が70%に満たない者はE判定とします。(配慮すべき特段の事情がある場合は除く/要相談)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

受講後に提出していただくリアクションレポートについて、講師が共有すべきと判断したものを取り上げて講評します。当初は授業時間内の解説を予定していますが、状況によってはmanabaなどを利用する場合があります。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

東京都埋蔵文化財センターで発掘調査の実務経験に加え、出土品の安定化処理、収蔵資料管理および理化学分析を平成18年から担当。

実務経験に関連する授業内容

埋蔵文化財に限らず、講師が実際に経験した事例等を盛り込んで講義します。

テキスト・参考文献等

内容が多岐にわたるため、各回の内容に即したレジュメを配布いたしますので、特定のテキストは使用いたしません。参考文献につきましては、レジュメ等で随時ご案内いたします。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 考古学特講A**担当教員： 須田 英一**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火5

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-AR3-F425

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:2

更新者：AC9669

更新日時：2026-01-12 15:21:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

指定史跡を中心に神奈川県内の代表的な遺跡を取り上げ、その遺跡の発見や発掘調査に関わった地域研究者達にスポットを当てながら、日本考古学の研究の歩みと成果について理解を深める。また、地方自治体での実務経験、大学調査機関での調査・研究経験を通じた遺跡の調査現場での経験を伝えると共に、地域社会における遺跡の保存と活用についても考えてみたい。

科目目的

神奈川県内を中心として活動した地域研究者達の足跡をたどり、遺跡の調査・研究から構築された考古学の成果を通じて、神奈川県内の遺跡と人物との関わりについて幅広く習得する。考古学的なものの考え方・捉え方も身に付ける。また、地域研究にかけた人物達の想いが、考古学の調査・研究成果とその保護にどのようにつながっていったのかについても知ってもらいたい。

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識」・「複眼的思考」を習得することを目的としている。

到達目標

この科目では、地域研究者達の足跡から、遺跡と人物との関わりについて幅広く考えられるようになると共に、各事例から地域研究者達の想いが現代にも継承されていることの理解を進めることを到達目標とする。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス 考古学史の考え方をイメージする
- 第2回 日本考古学史研究の捉え方
- 第3回 映画・テレビドラマに登場する考古学者と遺跡、文化財
- 第4回 旧石器時代の遺跡(1)横須賀市 船久保遺跡 ー狩猟技術と陥し穴猟ー
- 第5回 縄文時代の遺跡(1) 三浦市 諸磯遺跡 ー榊原政職と諸磯式土器ー
- 第6回 縄文時代の遺跡(2) 相模原市 勝坂遺跡 ー大山柏と勝坂式土器ー
- 第7回 弥生時代の遺跡(1) 三浦市 赤坂遺跡 ー赤星直忠・岡本勇と遺跡の保存ー
- 第8回 弥生時代の遺跡(2) 三浦半島 海蝕洞穴遺跡群 ー赤星直忠と「穴の考古学」ー
- 第9回 古墳時代の遺跡 葉山町 長柄桜山古墳 ーアマチュア考古学者と遺跡の発見ー
- 第10回 奈良時代の遺跡 茅ヶ崎市 七堂伽藍跡(下寺尾官衙遺跡群)ー岡本勇と寺院址の発見ー
- 第11回 近現代の遺跡(1) 三浦半島 東京湾防衛砲台群と戦争遺跡 ー赤星直忠と『三浦半島城郭史』ー
- 第12回 近現代の遺跡(2) 三浦市 ヤキバの塚遺跡 ー考古学からみた近現代の漁民の暮らしー
- 第13回 考古学史(1) 民族(俗)考古学研究
- 第14回 総括・まとめ 遺跡の調査・研究の成果、遺跡の発掘調査に関わった人物達、遺跡の保存と活用

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

プライベートな時間に、近隣の埋蔵文化財センター・博物館などに足を運び、埋蔵文化財の活用事業にも参加してほしい。また、文化財や史跡などに関する新聞・雑誌記事や、テレビのニュース・特集番組などにも接し、講義内容の理解度を高めてほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	定期試験は実施しない。学期末の課題レポートを課す。その内容を基準とする。
平常点	40%	授業の受講態度の状況と、毎回のリアクションペーパーの内容を基準とする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:課題レポートを提出していない受講者は、F判定とするので、十分に注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

- ・1988年9月～1991年12月、慶應義塾藤沢校地蔵文化財調査室勤務、発掘調査担当者として発掘調査・整理作業に従事
- ・1994年4月～2010年3月、神奈川県三浦市教育委員会社会教育課文化財保護係勤務、文化財担当者として埋蔵文化財発掘調査・整理作業、資料館運営、公開・普及活動、庶務事務に従事
- ・2011年10月～2013年3月、慶應義塾大学矢上地区文化財調査室勤務、文化財担当者として整理作業に従事

実務経験に関連する授業内容

大学の調査研究機関、地方自治体の文化財行政の実務経験を通じ、埋蔵文化財行政に関する基本的な知識と運用、埋蔵文化財の保存と活用、公開・普及のあり方について講義する。

テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布する。下記以外の参考文献については適宜紹介する。
須田英一『遺跡保護行政とその担い手』同成社、2014年 ISBN978-4-88621-676-2

オフィスアワー

その他特記事項

講義では神奈川県内の遺跡に関わる最新のニュースなどにも触れるので、必ずしもシラバス通りの進行にならない場合がある。

参考URL

備考

科目名： 考古学特講B**担当教員： 黒尾 和久**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-AR3-F426

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:2

更新者：AC7952

更新日時：2026-01-09 08:47:3

授業形式

原則的に、すべての授業を対面で行います。出張などで対面授業が行えない際に、課題提出によるオンデマンドの授業に切り替えることがあります。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

考古資料の性格、「遺跡」とは何か、発掘調査とはどのような行為なのかについて概説しつつ、考古学的思考は、具体的資料を介して、どのように接近するのか、現代から先史まで時代を遡りつつ理解してゆく。そのために、「考古資料論」について念頭におき、日本考古学の最も新しい領域となる「近現代考古学」や、中央大学文学部も所在する多摩地域の「集落遺跡」の調査事例を素材にとりあげて、概説する。

科目目的

考古資料の性格と人類史の復元に寄与する考古学的手法の役割とその積極性と限界や課題について理解し、考古学的思考とは何か、考える態度を身につける。

到達目標

あなたが、歴史・人類史を復元するための方法論としての考古学的手法や思考法について、考古資料の性格を踏まえながら、理解できるようになることをめざします。

(素材は、東京・多摩地域の発掘調査資料やそのあゆみから、現代から原始時代まで、時代を遡るように選択しています)。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス:考古資料論～「遺跡」とは何か 「遺跡」はどこにある
- 第2回 考古資料論～「遺」という言葉について、「遺産」について考える
- 第3回 近世・近代考古学の課題～江戸・東京を掘る:江戸東京博物館ジオラマにみる「0層」問題
- 第4回 近・現代考古学への視点～近現代陶磁器の変遷(震災・戦災考古学/ハンセン病療養所の調査)
- 第5回 多摩地域の古代・中世考古学～水田はいつから水田か? あきる野市砂沼谷戸の調査
- 第6回 多摩地域の古代・中世考古学～日野市落川・一の宮遺跡の調査
- 第7回 多摩地域の中世考古学～高幡高麗氏の足跡
- 第8回 多摩地域の中世考古学～立川氏館跡を掘る
- 第9回 多摩地域の中世考古学～戦国の終わりを告げた八王子城/再び「遺跡」について考える
- 第10回 弥生時代～古墳時代～卑弥呼の時代の雑穀栽培のムラ
- 第11回 「遺跡の範囲」の外(沖積低地)に眠る弥生集落について考える
- 第12回 縄文時代～縄文集落研究の現状と課題① 調査史と資料論
- 第13回 縄文時代～縄文集落研究の現状と課題② 展望と課題
- 第14回 まとめ～現代考古学の課題について

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	60%	期末レポートを提出してもらいます。授業内容を踏まえていただき、自分の意見や理解したことなどを論じてもらい、その内容で評価いたします。
平常点	40%	各回の講義終了後に、授業に関して感想・質問・意見などを小レポートとして提出してもらいます。manabaを利用します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

日本考古学協会員(日本考古学)
 主な発掘調査・報告実務経験:八王子市宇津木台遺跡群、調布市原山遺跡、日野市落川遺跡、同南広間地遺跡、立川市立川氏館跡、あきる野市前原・大上、砂沼、水草木遺跡、豊島区長崎並木遺跡、群馬県草津町重監房跡地など。
 市史編さん:田無市史、八王子市史、小金井市史、羽村市史、清瀬市史

実務経験に関連する授業内容

講師が、自らの発掘調査・報告経験を踏まえて、考えてきたことを中心に、話題提供をいたします。

テキスト・参考文献等

とくに教科書は指定いたしません。
 講義の事前に適宜、manabaを通して資料を配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考